

# 特別支援学校授業力向上実践事例集

- ・ 清掃検定
- ・ パソコン入力検定
- ・ 接客サービス検定 に関連した授業実践



令和5年3月  
千葉県教育委員会  
千葉県特別支援学校キャリア教育推進協議会



## はじめに

千葉県では平成27年5月に特別支援学校における一貫した系統的・体系的キャリア教育の推進について協議し、本県特別支援教育の振興に寄与することを目的として「キャリア教育推進協議会」を立ち上げました。

7年目を迎え、現在では各学校が清掃検定部会、パソコン検定部会、接客サービス検定部会の3つの検定部会が開催する各検定を核に日々の教育活動においてキャリア教育を推し進めています。

令和2年度は清掃検定部会の「県検定」はコロナ禍により開催することができませんでしたでしたが、パソコン入力検定や接客サービス検定とともに各学校で実施する方法で開催していただきました。

また令和3年度は、清掃検定部会の「県検定」も部会長をはじめ各委員の方々の努力と工夫、会場校の千葉市立高等特別支援学校の御協力のもと2年ぶりに開催することができました。このようにコロナ禍においても、本協議会の歩みを止めることなく、その目的を果たすことができましたのも各部会並びに各実施校の皆様の御理解と御協力によるものと心よりお礼申し上げます。

さて、千葉県では検定のための検定ではなく、各技能検定を通して、「お掃除好き、パソコン好き、接客好きの子どもを育てる」ことで幼児児童生徒の主體的な学びを推進するとともに、自己肯定感を育み、自己実現のツールとなってほしいという願いを大切にしていきたいと思います。

今年度、これまで県内の特別支援学校で実践されているキャリア教育の実践をまとめ「特別支援学校授業力向上実践事例集第2号」として発刊することができました。多くの皆様に御高覧いただき、忌憚のない御意見、御感想をお寄せいただけると幸いです。

終わりに、本実践事例集の発行に当たり、御尽力いただきました千葉県教育委員会教育振興部特別支援教育課をはじめ、実践をお寄せいただきました各特別支援学校関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和3年度千葉県特別支援学校キャリア教育推進協議会 会長 松本 巖  
(現千葉県立野田特別支援学校 校長)

# 目次

はじめに

## 1. 千葉県で実施している技能検定の概要

- ・清掃検定について . . . . . 1
- ・パソコン入力検定について . . . . . 2
- ・接客サービス検定について . . . . . 3

## 2. 清掃検定部会の授業実践

- ①清掃活動を通して地域と繋がる取組 . . . . . 4  
(千葉県立印旛特別支援学校さくら分校)
- ②話し合いや協働活動を通して、自分たちで考え判断する力の育成を  
目指す取組 (千葉県立千葉特別支援学校) . . . . . 6
- ③コースの仲間との対話及び評価を通して、自らの清掃技術の向上に  
取り組む活動 (千葉県立特別支援学校流山高等学園) . . . . . 8
- ④将来の進路先等で役に立つ基本的な清掃の習得を目指す取組  
(市川市立須和田の丘支援学校) . . . . . 10

## 3. パソコン入力検定部会の授業実践

- ①パソコンを活用して、自分の興味・関心を広げる部活動「マンガ・  
イラスト・パソコン部」の取組 (千葉県立桜が丘特別支援学校) . . . . . 12
- ②病弱の生徒に対するパソコンの技術や興味を高める取組  
(千葉県立仁戸名特別支援学校) . . . . . 14
- ③パソコン入力検定を通して達成感を得るための取組～様々な学習活動に  
自信をもって取り組むことができることを目指して～  
(千葉県立柏特別支援学校) . . . . . 16
- ④卒業生の生活を見据えた自律的・主体的な取組を軸とした  
検定へのチャレンジ (千葉県立湖北特別支援学校) . . . . . 18

#### 4. 接客サービス検定部会の授業実践

- ①接客体験から豊かな社会生活を送る力の育成につなげる取組  
(千葉県立千葉聾学校) . . . . . 20
- ②接客サービス検定～初級編～を活用した教育課程と授業の工夫  
(千葉県立市川特別支援学校) . . . . . 22
- ③「つくし祭週間」での製品販売に向けた中学部・高等部  
作業学習における取組 (千葉県立つくし特別支援学校) . . . . . 24
- ④接客を通してコミュニケーション力の育成と、販売活動に  
生かすことを目指した取組 (千葉県立大網白里特別支援学校) . . . . . 26

#### 【参考資料】

- 千葉県特別支援学校 清掃検定マニュアル 第2版

# 千葉県特別支援学校清掃検定について

\*\*\*\*\*

## 1. 目的

- (1) 日々の清掃や校内検定に取り組む幼児児童生徒の意欲の向上に資する。
- (2) 校内清掃検定で1級を取得した幼児児童生徒を対象に県清掃検定審査員が審査し、その評価を主催者が認定する。

## 2. 検定種目及び課題

- (1) 床清掃（自在ぼうき使用）
- (2) 窓清掃（スクイジー使用）
  - ・ 検定の制限時間は、床清掃6分、窓清掃8分とする。
  - ・ 検定で使用する道具等は、『千葉県特別支援学校清掃検定マニュアル第2版』及び「千葉県特別支援学校 県清掃検定細目」に準じて、主催者が用意する。

## 3. 検定方法

「千葉県特別支援学校県清掃検定細目」に準じて実施し、『千葉県特別支援学校清掃検定マニュアル第2版』12～14ページの校内検定評価表、県清掃検定評価表（案）に基づいて県清掃検定審査員が評価・助言を行い、認定証を渡す。

## 4. 受検者及び受検種目

- (1) 千葉県内特別支援学校の幼稚部、小学部、中学部及び高等部（本科）に在籍する幼児児童生徒のうち、校内清掃検定で各検定種目の1級を取得し、当該校長が推薦する者。
- (2) 1校あたり各種目2名以内、受検種目は一人一種目のみとする。

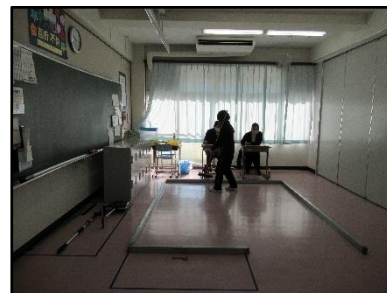
## 5. 清掃検定の様子



床清掃 1



床清掃 2



床清掃 3



窓清掃 1



窓清掃 2



控え場所(体育館)

# 千葉県特別支援学校パソコン入力検定について

\*\*\*\*\*

## 1. 目的

県内統一の基準に基づくパソコン入力に関する技能検定を通して、主体的学びを推進するとともに、パソコン好きな児童生徒を育成する。

## 2. 検定内容及び検定級

- (1) 日本語ワープロソフト又は表計算ソフトを使用して、基準に沿ってパソコン入力能力を検定する。
- (2) 検定級は1級から10級とする（主催者が定める検定問題基準による）。
- (3) 検定合格基準、採点方法、実施方法の詳細については、別に定める。
- (4) 1級と2級は、速度部門と文書作成部門、3級から10級は速度部門を実施する。

## 3. 検定対象者

千葉県内の特別支援学校に通う児童生徒

## 4. 検定実施方法

- (1) 「千葉県特別支援学校パソコン入力検定実施要項」及び「千葉県特別支援学校パソコン入力検定実施細目」に準じて実施する。
- (2) 検定問題は主催者が作成する。検定級に応じて入力する文字種、漢字レベル、合格するための文字数を定める。
- (3) 1級から6級は、問題用紙に記された課題を見て、日本語ワープロソフトを使用し、入力する。7級から10級は表計算ソフトを使用し、パソコン画面を見て入力する。
- (4) 検定実施にあたっては、「パソコン入力検定監督者要領」に沿って行う。
- (5) 合格者に認定証を授与する。

## 5. パソコン入力検定の様子



# 千葉県特別支援学校接客サービス検定について

\*\*\*\*\*

## 1. 目的

- (1) 人と関わることの喜び、感謝の気持ちを学ぶ。
- (2) 接客にふさわしい身だしなみやあいさつ、言葉遣いなど、基本的なマニュアルに示された動作等を身につけながら、丁寧で心のこもった接客サービスを目指す。
- (3) 視線を合わせることや発声等で自分の意思を表し、希望する幼児児童生徒が誰でも参加することができる検定とし、校内検定を実施する。
- (4) 校内接客サービス検定で初級検定6級を取得した幼児児童生徒は、積極的に上級検定取得を目指す。

## 2. 検定種目及び課題

- (1) 初級編（6級～10級）
- (2) 上級編（1級～5級）
  - ・検定の制限時間は、特に設けない。
  - ・検定では、お客様の入店から退店までの一連の流れの中で、「身だしなみ」、「接客態度、対応（計算など）」をそれぞれの項目に合わせて評価をしていく。

## 3. 検定方法

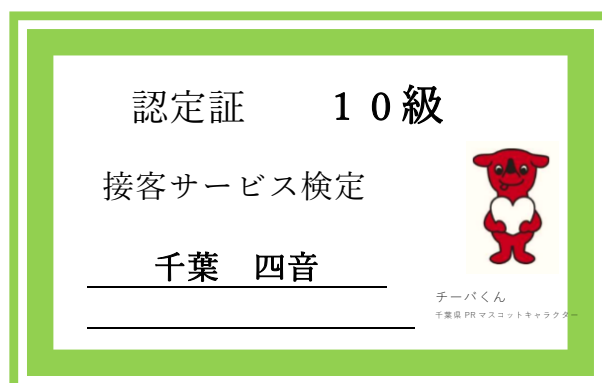
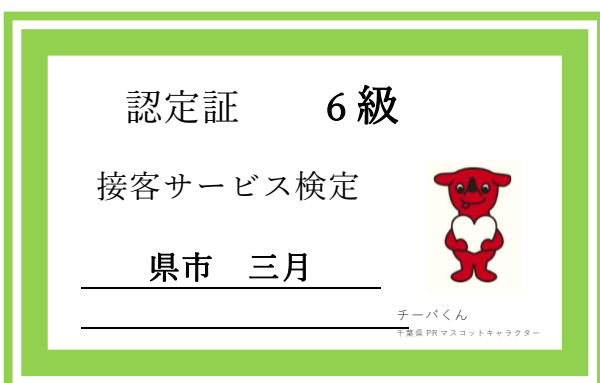
「接客サービス検定マニュアル」に準じて実施し、『接客サービス検定マニュアル初級編第2版』『接客サービス検定上級編（案）』の校内検定評価表、に基づいて校内検定員2名以上が評価・助言を行い、認定証を渡す。

## 4. 認定証

### 【上級認定証】



### 【初級認定証】



# 清掃活動を通して地域と繋がる取組

【千葉県立印旛特別支援学校さくら分校】

\*\*\*\*\*

～取組のポイント～

コース実習の授業で身につけた清掃の知識や技能を活かし、近隣の施設や地域の清掃に取り組む活動である。普段とは異なる施設や地域で清掃を行い、授業で学んできたことを活かして活動することで更なる意欲向上、掃除好き生徒への育ちへとつなげた。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

---

### (1) 対象生徒

特別支援学校高等部普通科職業コース（高等部1～3年）

### (2) 教科・領域

・各教科等を合わせた指導

職業コース実習（メンテナンスサービスコース）（週30時限のうちの11時限）

### (3) 目標

①清掃に関する知識・技能等の習得を図る。

②チームとして作業の流れを考えながら、その場に応じて働く力が身につくようにする。

③公共施設や企業と連携し、活動場所を広げていくことにより、活動計画を自分たちで考えるなど、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

### (4) 学習計画

近隣施設清掃：年間を通して、月に1～2度実施

## 2. 実践の内容

---

### (1) 取組までの経緯

さくら分校は、教育課程の中心にコース実習（各教科等を合わせた指導）を位置づけている。メンテナンスサービスコースでは、清掃活動を通して働く力を身につけることを目的としている。その中で培った知識や技術を活かし、近隣の施設の清掃活動を行っている。上記、メンテナンスサービスコースの目標の中でも、③に重点を置き、実際に現場に出向き、清掃することで主体性を育てている。

### (2) 内容

月に1～2度、近隣の施設に出向き、清掃活動を行う。作業内容は、実施日毎に多少異なるが、スクイジーを使用した窓清掃や高圧洗浄機等の大型資機材を使用した清掃が多い。前回に行った清掃状況や施設の様子などから、次回どんな清掃をするかを決めたり、施設から依頼された場所を清掃したりと、状況に合わせて自分たちで考えて清掃を計画する。また、校外での活動、施設から依頼された作業であることを伝え、礼儀や身だしなみ、施設設備の扱い方等の基本的なことも必要であることを確認した。

## 3. 工夫点

---

### (1) 事前・事後学習

コースのメンバーを4～5人の3チームに分け、チーム毎に清掃を計画し活動に取り組むようにした。初回は、清掃内容や場所、必要な道具等は教員主導で行った。2回目以降は、前回の清掃の進捗状況や依頼の内容、施設の様子などからチーム毎にどんな清掃をするか、どの道具が必要かを相談し、決めるようにした。



事後学習では、清掃の進捗状況をチーム毎に確認するようにした。また、必要な道具や不必要な道具、持参していれば良かった道具などを洗い出し、次回の清掃に向けて道具リストの作成などを行うようにした。

#### 4. 実践の評価（成果と課題）

##### （1）成果

近隣施設での清掃活動では、時期によって清掃の内容も異なる。施設からの希望を受けた清掃内容をもとに、大まかな清掃計画を立てて取り組んだ。窓清掃や、除草作業、また床面の高圧洗浄等、様々な依頼をもとに、グループ内で自分たちの活動に必要な道具を考え、準備から当日の活動内容までを生徒が主体となって計画を進められるようにした。当日を迎えて、実際に清掃をすると、「こんな道具が必要だった」「あの場所は、こんな清掃ができるのではない



【近隣の施設清掃】

か」など様々な意見が出た。自分たちで責任をもって準備や数の調整を行った道具が現場でどう活用できたかを感じながら仕事を終えることができた。時間内に頼まれた仕事を終え、成功したことを考える場面もあれば、人の動きや道具の過不足により生じた問題についても考える場面もあった。

また、計画を立てたり、実行したりするだけでなく、地域の方に喜ばれることや、学習を積み重ねてできるようになった清掃技術に対する他者からの評価や感謝の言葉が、何より生徒一人一人の意欲の向上につながっている。

校内では、そうした達成感とともに振り返りの時間を設け、様々な意見を交わすうちに、指示された場所を清掃するだけでなく、清掃の中に多くの気付きを見出すことができるようになってきた。チーム内で繰り返し話し合うことにより、広い視点をもつことができたり、人に喜んでもらえることを自分たちの喜びにできたりした。現場を観察する力や、その場にある物で柔軟に対応する力、より効率よく、より適した清掃のあり方を考えるきっかけとなっている。

##### （2）課題・展望

清掃の計画は、自分たちで立てられるようになってきている。今後は、職員で行っている施設との連絡なども生徒の活動として進めていくことで、より主体的な活動になると考えられる。

今年度より、さくら分校が置かれる千葉県立佐倉南高等学校と共同で、最寄り駅の花壇を管理しているところである。また、駅では毎月定期的にクリーン活動が行われており、本校の活動内容を知っていただく機会として今後も積極的に活動していきたい。



【花壇の管理】

さくら分校のコース実習は、1年ごとに切り替わるため、専門的な技術に関してはそれぞれのコース実習で蓄積することになる。そのため、自分たちの活動を見直す体制は、すべてのコースで継続し、連携する力・自分の活動を振り返る力なども横断的に身につけられるようにさくら分校全体の展望としてあげていきたい。

#### 5. その他（参考文献等）

- ・地域と共に進めるキャリア発達支援－職業学科3校合同研究実践事例集【ジアース教育新社】

# 話し合いや協働活動を通して、 自分たちで考え判断する力の育成を目指す取組

【学校名：千葉県立千葉特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
～取り組みのポイント～

千葉県清掃検定マニュアルに沿って、基本的な清掃技能を身につけ、習得したスキルを使って、職員から依頼された場所の清掃を行った。清掃の役割分担やいつまでに終わらせるかなど、活動計画を自分たちで話し合って決めることで、任された仕事に責任をもって取り組む姿が見られた。また、清掃終了後、責任者が依頼者に報告に行き、感想や評価を直接受けることで達成感や働く喜びを感じ、勤労意欲や自己肯定感の向上につながった。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

千葉特別支援学校高等部3年生の企業就労を希望する生徒

本校は知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校である。高等部は、半数以上が中学校から入学しており、生徒の実態は幅広い。知的障害の程度が軽度の生徒にとっての学習活動の充実を目指し、企業就労を希望する3年生に特化した作業班を編制することにした。近年、企業就労者の就労先は、サービス業が中心となっていることから、サービス業に取り組む作業班が必要だと考え、だれにとっても身近で生きていく上で欠かすことのできない「清掃」を学習活動の中心として取り上げることにした。

また、年間の取り組みの中では、自分の清掃スキルの習得状況を確認する機会として校内検定に取り組み、プレ清掃検定として、生徒同士で試技を見合い、互いに評価し合う機会も設けるようにした。令和元年度は4名の生徒が、千葉県特別支援学校清掃検定に出場した。

### (2) 教科・領域

- ・各教科等を合わせた指導  
作業学習（メンテナンス班）

### (3) 目標

- ①身につけた清掃技能を生かし、依頼された場所の清掃に取り組むことができる。
- ②依頼者から指定された期限や留意点を意識して清掃に取り組むことができる。

### (4) 学習計画 「依頼された場所の清掃に取り組もう」

月 日	曜 日	活 動 内 容
R 2 11/11	水	導入（目標決め、依頼書回収）
11/12	木	清掃場所、役割決め
11/13 ～ 19	金～木	依頼場所の清掃
11/20	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め
11/24 ～ 26	火～木	依頼場所の清掃
11/27	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め
12/ 1 ～ 3	火～木	依頼場所の清掃
12/ 4	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め
12/ 8 ～ 10	火～木	依頼場所の清掃
12/11	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め

12/15・16	火・水	依頼場所の清掃
12/17	木	依頼場所の清掃
12/18	金	振り返り、活動報告、お疲れ様会

## 2. 実践の内容及び工夫

(1) 話し合い活動…依頼書をもとに清掃場所の役割分担を決め、期限や留意点を確認する。

- 〔工夫点〕
- ・リーダーを決め、リーダーを中心に話し合いを進めるようにした。
  - ・なかなか発言できない生徒には、教員がそばでアドバイスしたり、一緒に考えをまとめたりして、発言を促すようにした。

(2) 清掃活動…担当場所の清掃に取り組む。

- 〔工夫点〕
- ・個々の得意なことを生かした役割分担になるよう配慮することで、全員が自己有用感ややり甲斐を感じながら仕事に取り組めるようにした。
  - ・ペアやチームを組んで取り組むことで、互いに進捗状況を確認したり、仕上がりを点検し合ったりするようにし、教員も共に働きながら、声のかけ方や報告の仕方などの手本を示すようにした。
  - ・うまくいかないことも大切な学びの機会ととらえ、生徒が考え、判断する姿勢を尊重するようにした。

(3) 報告…清掃が終わったことを依頼者に報告する。

- 〔工夫点〕
- ・達成感や働くことの厳しさを感じることができるよう、依頼者に、率直な感想を伝えてもらうことを事前に伝えた。
  - ・清掃前と清掃後の写真や依頼者からの評価表を、多くの人の目に触れる場所に掲示することで、意欲や達成感を得られるようにした。

## 3. 実践の評価

(1) 成果

同じ企業就労という目標をもった同質集団でグルーピングしたことで、互いに刺激を受け合い、高め合う姿が見られた。また、必要なことを互いに伝え合う際、どのように話したらよいか、相手がどう思うかを考えて話をしようとする姿勢が育ってきた。さらに、自分たちの仕事に対する率直な評価や感謝の言葉を直接受ける場面があることで、働くことの厳しさや喜び、達成感など、体験を通して学ぶことができた。自分の行った清掃活動を依頼者に喜んでもらえることは、「清掃が得意」という自信につながり、自己肯定感の向上にもつながった。

また、期限内に終わらせることができなかつたり、きれいに仕上げることができなかつたりしたときに、原因は何かを自分たちで考え、次はどうしたらよいか話し合い、次に生かそうとする姿勢も身に付いてきている。

(2) 課題・展望

感染症対策が必要な状況の中で、学習活動が校内で完結してしまっている。今後、地域へ活動の場を広げ、自分たちの仕事が報酬を得るサービスとしての質を保証できているかを自分たちで確認できるような機会を設けていくことで、より働く姿勢の育成につなげていきたい。

また、毎日の100分間という授業時間の中で、とことん働き、じっくり振り返るという時間をどう確保するかが大きな課題と感じている。週に1回、作業学習に終日取り組む日を設けたり、現場実習期間中の長時間作業期間に地域での活動を取り入れたりするなど、教育課程の変更や年間計画の見直しを進めたい。

# コースの仲間との対話及び評価を通して、 自らの清掃技術の向上に取り組む活動

【千葉県立特別支援学校流山高等学園】

\*\*\*\*\*  
～取り組みのポイント～

同輩の仲間同士が、清掃技術向上を目指してアドバイスをし合うことで、自分の強みを生かした清掃を行う。他人（審査員）の視点を入れながら自分の清掃を客観的に見られるようにする取り組み。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

---

### (1) 対象生徒

福祉流通サービス科流通コースクリーングループ（以下、クリーングループ）の1学年生徒を対象とした（男子8名）。いずれも千葉県特別支援学校清掃検定（以下、清掃検定）の意義を理解し、学習を希望した生徒である。学習中の指導内容は清掃検定の第2版を基準として活用した。また、特に意欲的な3名が清掃検定の県検定へ出場した。

### (2) 教科・領域

- ・専門教科（12単位時間／週）の中で実施

### (3) 目標

- ・清掃検定第2版の技術の習得をすることができる。

### (4) 学習計画

- ・2021障害者技能競技大会が終了した次の日から県検定前日までの32単位時間で実施

## 2. 実践の内容

---

- ・清掃検定県検定の募集に合わせ、全体に清掃検定を行う意義や目的を周知した。
- ・2021障害者技能競技大会終了後から窓清掃グループと床清掃グループに分けた。すべての生徒が期間内で両方の競技種目を体験する。
- ・「練習時間」では、グループ内のペアもしくは全員がお互いの演技を見合い、アドバイスをを行う。
- ・アドバイスは可能な限り即時評価としたが、評価内容に不安を感じる生徒の場合は教員に相談し、教員の前で伝える内容の練習を行ってからとした。
- ・否定的な発言は慎むように事前に促し、実施者の気持ちに配慮できるようにした。
- ・「採点時間」では、グループ内の生徒に加え、教員が審査員役を行った。アドバイス順は挙手制としたが、発言頻度により少ない順にした。最終好評を教員が行い、伝えたい内容を網羅できるようにした。
- ・教員の指導内容は各動作の理由を中心に行うとともに、生徒がどのような清掃を行いたいのか（安全性、機敏さ、正確性、安心感 etc）を事前に聞き取りして、自分の強みにできるようにした。

## 3. 工夫点

---

- ・練習時間と採点時間を分けることにより、即時評価ができるようにした。
- ・評価内容に不安を感じる生徒には、事前に教員が内容を受け、理論や伝え方を指導した。
- ・キャリアベーシックを清掃検定練習と同時期に行うことにより、清掃の基本を学ぶ際の意識づけができるようにした。

- ・生徒同士でアドバイスし合うことにより、人からの意見を聞く練習になるようにした。
- ・単なる「お掃除」ではなく、意思をもった清掃になるように事前に「売り（他者へのメリットは何か）と強み（他者との違いは何か）」を決めた。

#### クリーングループ年間計画（第二キャンパス）

	1年	2年
4月	オリエンテーション	オリエンテーション
5月	基礎指導	ローテーションで活動 (商品管理、事務、クリーングループ)
6月	↓	↓
7月		
9月	定期清掃、窓清掃	定期清掃、窓清掃
10月	定期清掃、WAXがけ	定期清掃、WAXがけ
11月	特別教室清掃、WAXがけ	特別教室清掃、WAXがけ
12月	トイレ清掃、水道磨き	トイレ清掃、水道磨き
1月	剥離清掃	剥離清掃
2月	剥離清掃、階段のWAXがけ	剥離清掃、階段のWAXがけ
3月	教室、廊下のWAXがけ	教室、廊下のWAXがけ

#### 4. 実践の評価（成果と課題）

##### (1) 成果

- ・清掃検定の内容は基礎的・基本的な内容のため、この学習で清掃の方法を学ぶことは大きなメリットとなる。本校はキャリアチャレンジ（※1）を実施しており、今回の内容を他コースの生徒にそのまま伝達している。その際に、自信をもって理論や考え方も踏まえながら伝えることができた。
- ・自分の目指す清掃（自分の売り・強み）を考え、相手に伝えてから実践したことで、自身の考えの中で強調すべき（伝えたい）内容が明確になった。
- ・なんとなく説明をしていた生徒が、理論立てた説明やアドバイスを伝えるようになった。
- ・統一した試技内容のため、生徒同士で議論しながら活動できた。

（※1）クリーングループが他コースの生徒に対して、清掃を教える活動。



##### (2) 課題・展望

- ・清掃検定の内容だけでは、画一的な内容であるため、クリーングループの生徒が通常行う「現場に合わせた清掃」の肥やしとなるか疑問であった。あくまで別活動ととらえる必要がある。
- ・発展的な内容とするためには、各校において付加的な技術や思考錯誤を行ったり、清掃検定開催当初の予定通り「モップ」「トイレ清掃」「ポリッシャー」などの内容を行ったり、日本硝子協会が主催する「窓清掃選手権」のようなエキシビションの要素を取り入れていくことを検討している。

# 将来の進路先等で役に立つ基本的な 清掃の習得を目指す取組

【学校名：市川市立須和田の丘支援学校】

\*\*\*\*\*

～取組のポイント～

将来の進路先などで役に立つ基本的な清掃の習得を目指すことを目的に、小学部から高等部まで、同じ視点で清掃活動を行い、自ら清掃に取り組む児童生徒を育てている。中でも、

○目標をもって検定に取り組むことで、主体性や、向上心を養う。

○目標を達成することで自信をもち、積極的に清掃活動に取り組む力を育てる。

という二点を活動の重点に置き、各学部それぞれの発達段階に応じて取り組んでいる。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

小学部、中学部、高等部の児童生徒

### (2) 教科・領域

・日常生活の指導、職業・家庭科

### (3) 目標

①タオルの持ち方、絞り方、たたみ方の基本について、清掃検定のマニュアルと同じ方法で行う。

②清掃の自在ぼうき、塵取りの持ち方、置き方、扱い方を覚え、実際の清掃で活用する。

③テーブル拭きは、コの字型の拭き方を覚えて、実践する。

④清掃検定のマニュアルに基づいて、実際の清掃に活かす。

### (4) 学習計画

期 日	主 な 内 容
5月	・マニュアルのうち、必要項目を印刷・配付をして、クラスごとにテーブル拭き・窓拭き・床清掃の共通確認をする。
6月	・清掃検定に向けて、チラシを作りクラスに配付。 ・プレ検定に向けて中学部、高等部の学年、クラスごとに（9月校内検定に向けて準備する）
7月	・プレ検定（※清掃検定前の練習期間） 1日（木）～16日（金） 本人と担任に、良いところや改善点を伝え、今後の参考にする。
9月	・第1回 清掃検定 検定日 21日（火）～30日（木）
12月	・県の清掃検定該当生徒なし
1月	・第2回 清掃検定 検定日 21日（金）～26日（水）

[基本的な技術の習得への取組]

- ・小学部：「遊び」の活動を通して
- ・中学部：生徒同士で行う清掃活動や清掃検定に向けての取組を通して
- ・高等部：毎日の清掃活動を通して

## 2. 実践の内容

[各学部の取り組み]

### (1) 小学部の取り組み

午後の生活の時間の13時30分から20分間程度、清掃に係る身体の使い方や道具の扱い方について学んでいる。低学年は、「遊び」（ゲーム形式で、床に置かれた物をほうきのような棒を使って決められた場所に集める活動。高這いや四つ這いの姿勢で、箱を前に押し進める活動等。）を通して、清掃活動での様々な身体の使い方を経験していく。高学年は、様々な清掃道具を操作することに重点を置いて取り組んでいる。自在ぼうきや座敷ぼうきを使用して、掃き掃除や雑巾モップを使用（雑巾がけの代替）しての床拭きを行っている。また、友達と協力しながら配膳台や机・椅子運びにも取り組んでいる。

### (2) 中学部の取り組み

日常生活の指導の中で、給食後に清掃の時間を設け、教室を中心に清掃をしている。小学部で習得した清掃の技術に加え、役割を果たしたり友達と協力したりすることを意識して取り組んでいる。また、テーブルの拭き方や、床の掃き方・拭き方などは高等部の清掃検定内容に合った清掃技術を取り入れている。校内清掃検定にチャレンジする生徒もいる。学級や生徒の実態に合わせ、協力して取り組んでいる。

### (3) 高等部の取り組み

月曜日から金曜日までの毎日14時5分～14時45分の時間に、毎日15分間を清掃の時間に充て教室や廊下、階段などの場所を中心に隅々まできれいに清掃ができるように取り組んでいる。高等部の生徒は、テーブルや机を拭くときは、タオルの持ち方、雑巾の絞り方、たたみ方に気をつけて、コの字型を意識して少しずつ拭けるようになってきた。また、床や廊下を掃く時は、自在ぼうきの持ち方や掃き方を千葉県清掃検定に基づいて取り組んでいる。

実践（校内清掃検定、校内清掃の様子）



< 掃き清掃 >



< 拭き清掃 >



< 高等部清掃の時間 >

## 3. 実践の評価（成果と課題）

### (1) 成果

清掃検定という技能検定を経験することで、清掃の技能面で自信をもつ生徒がでてきている。生徒は「自分たちで、清掃場所をきれいにしよう。」という意欲が感じられるようになってきた。清掃検定は、現在の清掃検定が何級の力なのかを知る良い機会である。そこから級が分かり、更に上の級を目指し明確な目標がもちやすい。最近では、少しずつ清掃検定を受検する生徒が増えてきている。

### (2) 課題・展望

千葉県清掃検定1級を取得し、県検定に出る生徒が減ってきているので、教員には引き続きキャリア教育の清掃部会などで各学部の教員と連携して清掃検定のマニュアルなどの伝達をしたり、清掃技術の向上に向けてどう支援していくかなど話し合いをしたりして、これからも清掃検定の大切さを伝えていきたい。

# パソコンを活用して、自分の興味・関心を広げる 部活動「マンガ・イラスト・パソコン部」の取組

【学校名：千葉県立桜が丘特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
～取組のポイント～

部活動として、パソコン入力検定へのチャレンジを位置付け、目的意識をもって取り組んだ。生徒の学びの速度は違うが、スキル獲得への意欲は高く、文字入力だけでなく書式設定の手順を学び、覚えたことでそれぞれの自信につながる取組ができた。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

高等部マンガ・イラスト・パソコン部生徒（部員5名）

### (2) 教科・領域

特別活動（部活動）

### (3) 目標

部活動でのパソコンを使う取り組みを通じて、パソコンへの親しみを高め、自分の興味あるものを調べたり、人に伝える道具として活用したりできるようにする。

### (4) 年間活動計画

月	回数	活 動 内 容
6月	2	調べて、話してみよう
7月	2	
9月	0	※緊急事態宣言中のため活動なし
10月	3	調べて、まとめてみよう
11月	3	入力検定合格をめざして、準備しよう
12月	4	
1月	3	調べて、まとめてみよう
2月	3	調べて、発表しよう
3月	2	

\*部活動は6月から開始した。9月は緊急事態宣言中のため活動ができなかった。

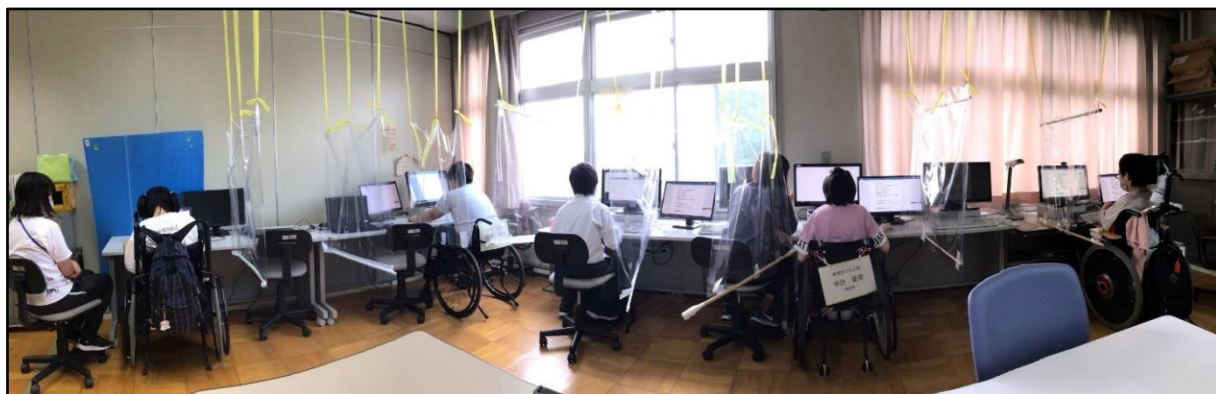
## 2. 実践の内容

マンガ・イラスト・パソコン部に入部した生徒は、パソコンの文字入力やインターネット検索の仕方、ワープロ・表計算・イラストソフトの使い方を覚え、現在の学習や卒業後の生活に生かしたいと考えている。この部の活動方針としては、部員がパソコンを使って楽しみながら、自分の興味のあることに取り組んだり、部員同士で関わりをもったりすることができるようにしたいと考えた。



活動計画では、①自分の興味あることをパソコンで調べて文章を作成し、それらをまとめて部の紹介ポスター作成、②オンラインでの人との関わりを目的に「新春オンラインクイズ大会の開催」を立案した。また、部員の中には、マウス操作やキーを同時に2個押すことが難しい生徒もいるが、入力仕組みを理解し、教員に操作を依頼することができる。部活動の他に情報の時間や総合的な探究の時間等、授業でもパソコンを使っている。

さらに、6月の活動当初からパソコン入力検定の取組やスキルアップすることにとっても興味・関心をもっていたので、パソコン入力検定に向けた準備、練習を進めていった。



### 3. 工夫点

#### (1) 書式設定と検定を受けるための要項の確認

パソコン入力検定を初めて体験する生徒は、「すぐに答えを入力しなければ」と焦ってしまい、問題用紙に記載されている注意点等を読み飛ばしていた。そこで、練習問題を見ながら、6月から取り組んでいた書式設定の復習、入力検定のルールなど生徒が検定を受けるために必要な知識・技能を学習した。同じ級を受ける生徒同士で練習問題の読み合わせを行い、「自分で注意すること」「文書の読みやすさ」などについて生徒間で意見交換を行うようにした。

#### (2) 本番を想定した練習

検定に向けた練習を行った後、本番を想定して、試験監督役の教員が、問題用紙の配付、時間の計測・通知等を行い、練習問題に取り組んだ。文字を入力するだけでなく、試験時間を意識していくことで「検定に合格したい」という生徒の気持ちが高まり、部活動の時間に繰り返し練習を行っていた。

### 4. 実践の評価（成果と課題）

5名の生徒は、卒業後の生活を見据えて、「パソコンやインターネットを自分のできることとして獲得したい」という気持ちが強く、パソコン入力検定合格への目的意識も高かった。

6月、7月は、ワープロソフト・表計算ソフトの使い方として、文字を入力する前に余白の設定、文字フォント、文字の大きさなどを学んだ。書式設定の仕方の手順を覚えたことで、11月に入ってから本格的始めたパソコン入力検定に向けた活動でも、書式設定の手順を理解し、自分でできる体験につながった。パソコン入力検定合格に向けて、部活動の時間だけではなく家庭や寄宿舎でも練習する生徒もいた。検定後は「落ち着いて検定ができた。」「設定や句読点にも気をつけて入力することができた。」と話しており、生徒が自信をつけている様子がよく分かった。

# 病弱の生徒に対するパソコンの技術や興味を高める取組

【学校名：千葉県立仁戸名特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
 ～取組のポイント～

本校は病弱特別支援学校であり、生徒は病状や治療によって授業に参加できないことがある。そのような場合を考慮し、対応ができるよう授業計画を立案している。また、病室や自宅でも授業が受けられるように遠隔の授業を実施する。タイピングの技術向上を生徒自身が実感することで学習意欲が高まるようにする。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

高等部生徒（AⅡコース）：1～3年（令和3年度は1、2年生のみ在籍）

### (2) 教科・領域

・教科「情報」の授業（週3回）の中で実施

### (3) 目標

- ①タッチタイピングが、ほぼ正確に一定の速度で打てるようになる。
- ②「千葉県特別支援学校キャリア教育推進協議会」主催のパソコン検定で、目標の級に合格できるように練習を積み上げる。
- ③「ICTプロフィシエンシー検定協会」主催のICT活用の検定（P検定）で、目標の級の合格に向けて、基礎的な知識の習得、文書作成ソフトと表計算ソフトの基礎を学ぶ。
- ④簡単なプログラミングの体験を通して、問題解決の思考力を養う。

### (4) 学習計画

月	1 学年	2 学年
4	「タイピング練習」 ・タッチタイピングが正確にできるようになる。 ・文章速度問題に取り組み、正確に日本語変換できるとともに速さにも挑戦する。	「タイピング練習」 ・タッチタイピングの正確性と速度を高めるためにローマ字単語練習に取り組む。 「表計算ソフトの基本」 ・データの入力や編集の方法を理解する。 ・計算式や簡単な関数の使い方を理解する。
5		
6	「文書作成ソフトの基本」 ・ページ設定やさまざまな編集機能を使えるようになる ・一定時間内で社内文章が作成できるように取り組む。 ・表の挿入や編集ができるようになる。 ・画像の挿入や編集について理解する。	「表計算ソフトの基本・応用」 ・簡単なグラフ作成の手順や編集の方法を理解する。 ・計算式や代表的な関数を利用する問題に取り組む。 「情報の基礎知識」 ・コンピュータと情報のデジタル化について学ぶ。
7		
8		
9	「文書作成ソフトの基本」 ・一定時間内で指定文章が作成できるように取り組む。	「情報の基礎知識」 ・ICTを活用した問題解決について学ぶ。
10	「情報の基礎知識」 ・コンピュータと情報のデジタル化について学習する。 「パソコン検定」 ・文字入力速度や文書作成の仕方について学習する。	「文書作成ソフト、表計算ソフトの活用」 ・文書作成ソフトと表計算ソフトの練習問題に取り組む。 「パソコン検定」 ・文字入力速度や文書作成の仕方について学習する。
11		
12	「パソコン検定」 ・希望する級を受検する。 「表計算ソフトの基本」 ・表計算問題の基礎について学習する。	「パソコン検定」 ・希望する級を受検する。 「P 検定」 ・模擬テストを受検する。
1	「P 検定」	「P 検定」

月	1 学年	2 学年
2	・ 文書作成ソフトと表計算ソフトの練習問題に取り組む。	・ データの並び替え、検索と置換、抽出、集計について学ぶ。
3	・ 模擬テスト、検定を受検する。 ・ 1年間の振り返りをする。	・ 模擬テスト、検定を受検する。 ・ 1年間の振り返りをする。

## 2. 実践の内容

- ・ タッチタイピングの習得のため、ホームポジションを覚え、1分間のローマ字単語練習に挑戦して自己ベストを目指す。
- ・ 文書作成ソフトの基本的な技能として、書体・色・大きさの変更、センタリング、ワードアートや罫線等のやり方を覚える
- ・ 表計算ソフトの基本的な技能として関数やグラフの作成方法を覚える。
- ・ パソコン検定の過去の問題を活用し、自分の実力にあった級に挑戦する。
- ・ P 検定に向けて、コンピュータに関する基礎的な知識を習得する。

## 3. 工夫点

- ・ タッチタイピングの習得時は、キーの配列を覚えるために、まず「A～L」の段から行い、できるようになれば「Q～P」の段、次に「Z～M」の段というように、段階を踏んで行った。
- ・ 病状等により登校が難しい生徒に対しては、遠隔で授業ができるようにすることで学習の機会を保障した。

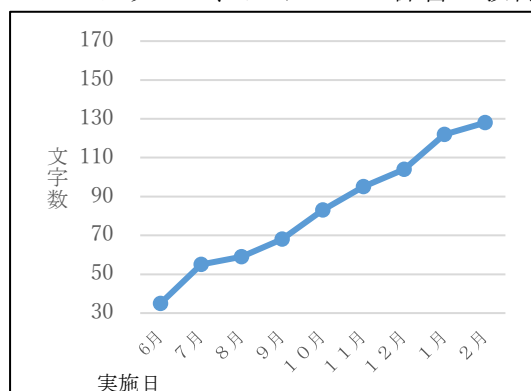
## 4. 実践の評価（成果と課題）

### (1) 成果

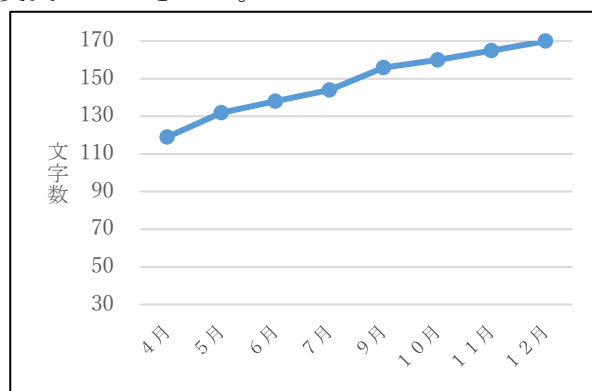
- ・ 授業を重ねるごとに、1分間に文字入力できる速度が速くなっていった（下記グラフ参照）。生徒は、タッチタイピングで良い記録を出すことに力を注いでおり、自己ベストを出す喜びながら報告している。
- ・ パソコン検定は、1級に1年生から1名、2年生から1名が受検し、両名とも合格した。合格することを目指してタイピング練習や文書作成の練習をしている。受検期間に幅があることで、毎日登校が難しい生徒でも試験を受検することができて助かっている。
- ・ 簡単な文書については、手本を見るだけで、手順を確認しなくても作成できるようになった。

### (2) 課題・展望

- ・ 令和3年度より、ICT活用能力のスキルアップとして、パソコン検定の他にもP検を受検することにした。1月頃に模擬テストを実施し、2月中旬に希望する級を受検する予定である。
- ・ ローマ字でのタイピング速度は速いが、漢字を含む文章になると入力速度が著しく遅くなってしまったため、タイピング練習の教材を変更していきたい。



Aさん R2年度（1年生）1分間の文字入力速度



Aさん R3年度（2年生）1分間の文字入力速度

# パソコン入力検定を通して達成感を得るための取組 ～様々な学習活動に自信をもって取り組むことができることを目指して～

【学校名：千葉県立柏特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
～取組のポイント～

パソコン入力検定の取組を通して、パソコンの扱いに慣れ、パソコンを活用して掲示物を作ったり、動画検索サイトで動画を楽しむなど余暇活動を広げたりすることができた。また、パソコンを活用することで生徒の活躍の場が増え、他者から頼られたり、認められたりする機会が多くなった。こうした経験を通して、生徒の自己肯定感を高めることができ、授業や日常生活の場面において前向きな姿勢が感じられた。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

---

### (1) 対象生徒

高等部に在籍している生徒のうちの希望者

### (2) 教科・領域

- ・年間指導計画でパソコン入力の学習を計画している学習グループについては、職業の時間でパソコン入力検定の受検に向けた学習を実施。
- ・希望者には、昼休み等の時間（自立活動の課題として適切な場合は、自立活動の時間を含む）を活用してパソコン入力検定の受検に向けた学習を実施。

### (3) 目標

- ①パソコンを使って、平仮名1字や単語、文章等を正しく入力することができる。
- ②パソコン入力検定の受検に向けた学習を通して、パソコンで文字を入力することに興味をもち、日常生活の場面で生かすことができる。
- ③パソコン入力検定の受検に向けた取り組みを通して、達成感や満足感を覚えることができる。

### (4) 学習計画

学習期間 令和3年10月19日（火）～11月30日（火）

検定期間 令和3年12月1日（水）～12月10日（金）

## 2. 実践の内容

---

本校では、パソコン入力検定を通してキーボード入力のスキル向上を目指すことを目標としている。また、受検級の合格という目標に向かって学習に取り組む過程で他者から評価され、認められる経験を通して、自己肯定感を高め自信をもつことができるようになることも目標としている。そのため、受検級の決定については、昨年受検した級を参考にして決定したり、入力練習に取り組みながら実態把握を行ったりして、適切な受検級を本人と担任で決めるようにしている。希望者には、昼休み等の時間を活用して、継続してパソコン入力検定の学習に取り組めるようにしている。

パソコン入力検定の学習は、①「時間制限を設けずに、受検級の練習問題に取り組む。」②「時間制限を設け、検定を想定して取り組む。」の流れで行うようにしている。

①では、正しく入力することを目標に取り組んでいる。ローマ字入力表やキーボードの配列を覚えたり、キーボードに添える手の置き方等を確認したり、パソコン入力における基礎部分を定着することができている。



②では、①で定着した基礎を生かしながら制限時間内に問題を解き終わることを目標にして取り組んでいる。監督者からの「あと〇分です。」の言葉かけを目安にしながら、問題を解くペースを掴んでいる様子があった。学習の流れを①→②と固定化することで、教員からの言葉かけがなくとも自分から取り組む様子が多く見られた。日々の学習に取り組む中で、教員が「全問正解だね」や「この前よりも間違えが減ったね」などの言葉かけをすると、笑顔を見せ喜ぶ生徒の様子があった。また、検定に対して意欲的な言動が多くなった。

### 3. 工夫点

---

- ・生徒の実態に応じて、学級や家庭で取り組むことができるプリントや教材を作成し、技術や意識の向上を図った。
- ・練習のたびに、成果が分かるように問題をプリントアウトし、生徒と教員でその都度採点をしながら振り返りを行い、意欲の向上へと結びつけた。

### 4. 実践の評価（成果と課題）

---

#### (1) 成果

令和3年度に受験した生徒は40名であり、うち38名が合格をした。12月10日に行った合格発表では結果を知り、多くの生徒が笑顔を見せていた。学習活動の場面で、iPadやパソコンを使った動画編集や、教員や友達の名前をパソコンで入力してネームプレートを作ることができるようになり、生徒の活躍の幅が広がった。活躍の幅が広がると、多くの教員や友達から頼られたり、認められたりする場面が増えた。パソコン入力検定の取り組みを通して、授業に対して前向きな姿勢が十分に感じられた。

#### (2) 課題・展望

本校の高等部の教育課程には、特設した「情報」の時間がないため、継続したパソコンに触れる機会が少なく、パソコン入力や文書作成に関するスキルについて系統的な学習を行うことが難しい。毎年、10月下旬頃からパソコン入力検定に向けた取組を行っているが、パソコンに触れていない期間が長くあるため、パソコン入力の感覚を取り戻すまでに時間がかかってしまう。来年度からは、本校高等部の生徒は「東葛の森特別支援学校」へと転学する。東葛の森特別支援学校では、教育課程に「情報」の時間を設定する予定なので、パソコン入力や文書作成等に関するスキルを系統的に学べるような環境づくりを整備していきたい。また、系統的な指導ができるような指導内容の精選や指導体制づくりも合わせて整備していきたい。

# 卒業後の生活を見据えた自律的・主体的な取組を軸とした検定へのチャレンジ

【学校名：千葉県立湖北特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
 ~取組のポイント~

パソコン入力検定受検希望者へ、検定合格に向けた放課後の活動として講習会を設定し、主体的な取り組みを促した。 ※「自分を律する」という願いで『自律的・主体的な取組』とした。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

高等部普通科・専門学科 希望生徒

### (2) 教科・領域

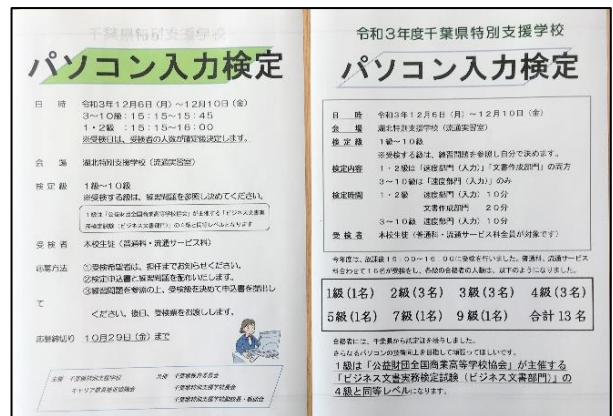
・放課後

### (3) 目標

- ① 県内統一の基準に基づくパソコン入力に関する技能検定を通して、主体的な学びを推進するとともに、パソコンの好きな生徒を育成する。
- ② パソコン入力検定への取り組みを通して、自律し主体的な取り組みを促し、検定後の達成感につなげることができる。

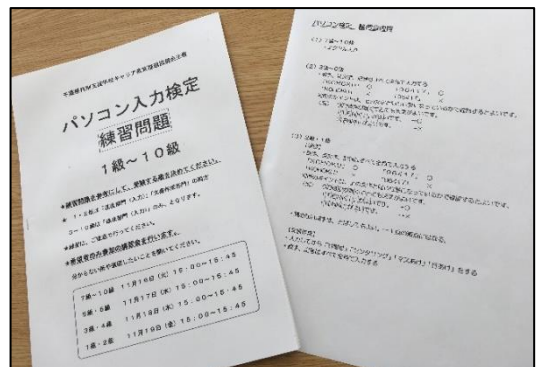
### (4) 活動計画

- 10月初旬 パソコン入力検定実施案内・申し込み
- 10月下旬 校内講習会の日程通知
- 11月中旬 講習会の実施
- 12月 パソコン入力検定の実施



## 2. 実践の内容

- ・受検希望者へ練習問題冊子を配付し、学習は原則家庭で行う。
- ・検定2週間前の放課後に講習会を設定し、自分の課題や疑問を確認する時間とする。
- ・受検予定者・講習会参加者を職員が職員室へ掲示し担任が支援できるようにする。
- ・質問は随時受け付けて、朝の時間や昼休みに確認できるようにする。
- ・合格者は、2学期終業式にて校長より表彰を行う。



### 3. 工夫点

- ・普通科・専門学科ともに同様の流れで実施した。普通科の自力下校生徒以外は、保護者の迎えとし、自力下校生徒も学校最寄り駅までの下校指導を行い、両学科とも講習会の機会は均等としている。
- ・講習会時に技能を確認し、上位の級を目指せる生徒にはチャレンジを促した。同様に、技術的に厳しい生徒とは話し合っ、受検級を見直すこともした。
- ・主体的な取り組みとするため、定期的な言葉かけを行い、自分で考えて受検までの練習計画を立てられるようにした。

### 4. 実践の評価（成果と課題）

#### （1）成果

家庭学習の習慣を促す機会となり、目標に向かって自律して学習する力を育むことができた。講習会の際に練習を行う中で、自分で考えた課題や疑問を教員とともに振り返り、課題を解決するために必要なことを一緒に考えた。その取り組みを通して、課題解決の方法を学ぶことができた。

講習会の日と現場実習が重なった生徒は、事前に相談に来て講習会の日を別日で調整してもらうなど、必要な報告・相談ができたことで合格につながった。このことは、検定を通して働く力の育成につながったと感じる。

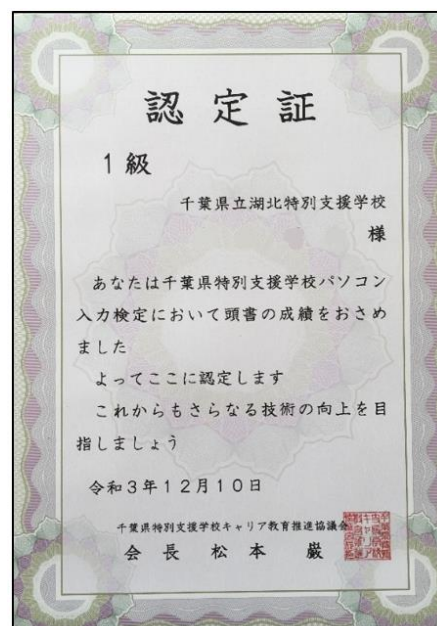
講習会に参加した生徒は、自己の技能に即した適切な級の合格を達成することができた。合格が成功体験となり、課題解決の力を育むとともに自己肯定感を高めることができた。統一された客観的な評価は、生徒の自信につながり、次年度の学習意欲にもつながった。また、生徒の合格、保護者・生徒の喜ぶ姿は、指導した教員の自己有用感にもつながり働きがいの一助ともなる。

#### （2）課題・展望

講習会に参加をしなかったり家庭での練習に取り組めなかったりした生徒は、十分な検定結果を得ることができなかった。本校においては、卒業後の福祉就労・企業就労に向けて日々学習している。在学中も卒業後も、自律して活動・就労に取り組む姿勢が求められる。

時代の変化とともに、企業就労における障害者雇用の状況も変化している。言われたことを従順にこなしていただくだけではなく、自分で考え、関係する人と対話しながら進めていく力が求められている。そのため、検定の取り組みにおいても、自ら考え、対話を通して自ら判断するという過程を大切にすることが、卒業後の社会自立・職業自立につながると思う。

教員側の指導・支援の視点では、検定を通して生徒にどのような力を育てたいのかを明確にして臨まなければならない。福祉就労、企業就労の双方に必要な力を理解し、目的をもって検定へ取り組むことが肝要である。



# 接客体験から豊かな社会生活を送る力の

## 育成につなげる取組

【学校名：千葉県立千葉聾学校】

\*\*\*\*\*  
 ~取組のポイント~

本校学校祭である「银杏祭」でのよりよい接客を行うことを目標に、「ていねい」「おもてなし」をキーワードに接客サービス検定に挑戦することとした。教員を介すことなくお客様とやり取りをする活動から、自信をもって自ら人と関わり、人と関わりながら社会生活を送る力につなげていく。

\*\*\*\*\*

### 1. 実践の概要

(1) 対象生徒

中学部重複学級1～3年生（1年3名・2年4名・3年2名 計9名）

(2) 教科・領域

- ・各教科等を合わせた指導
- 作業学習（週1回50分×2コマ授業）

(3) 目標（単元の目標）

- ①接客サービス検定初級編で使用する接客用語を、正しく使う（手話表現）ことができる。
- ②校内接客検定を通して、接客の基本的な流れを理解することができる。

(4) 学習計画

時間	月日	活動内容
1. 2	9月30日（木）	・接客検定の内容や流れを知ろう ・接客練習をしよう①
3. 4	10月7日（木）	・接客練習をしよう②③
5. 6	10月11日（月）	・接客練習をしよう④⑤
7. 8	10月12日（火）	・接客練習をしよう⑥⑦
9. 10	10月21日（木）	・接客練習をしよう⑧ ・接客サービス検定実施

### 2. 実践の内容

(1) これまでの経緯

本校中学部わかば学級（重複学級）では、全学年合同で各教科等を合わせた指導「作業学習」に取り組んでいる。活動内容は、クラフトバンドや絞り染による布製品づくり、牛乳パック再生パルプを使用したはがき、野菜づくりなどである。

1学期は収穫した野菜を校内で販売し、自分たちが作ったものが売れることで、生徒は充実感や達成感を味わった。さらに、作った野菜でお客が笑顔になったり、「美味しそうだね」と言葉かけられたりすることで、次への意欲につながってきた。反面、教員を介さないとスムーズにやりとりすることが難しい様子が見られた。

接客サービス検定は、「マニュアル（接客の流れ）が決められている」ことを伝え、安心して取り組むことができるようにした。

(2) 内容

はじめに、教員が手本を示し、写真や手順表を使用しながら繰り返し流れの学習を行った。自信がもてない生徒には、手元に手順表を置いたり、教員が動きを手話や言葉で伝えたりしな



がら取り組んだ。

友達が接客をする様子を見て、自分の動きを振り返ることができるようにした。

### 3. 工夫点

---

#### (1) 単元の進め方

- ・接客練習の流れを毎回一定にすることで、接客（検定）の流れを理解し、見通しをもって取り組めるようにする。
- ・検定合格者には「認定証」が授与されることを導入時に伝え、取組の励みになるようにする。

#### (2) 教材・補助具の工夫

- ・接客用語を理解したり、接客の流れを覚えたりできるように、手順表等の掲示物を作成し、練習中は視界に入る位置に掲示する。あわせて、教員が手話や指文字で内容を伝える。
- ・接客時に自分の立ち位置等が分かるように、立ち位置に丸形マットを置いて練習をする。

#### (3) 活動中の教員の支援

- ・お客様への働きかけが生徒から見られないときは、教員が隣で接客を行い、手本を示したり、合図を出したりする。
- ・接客時の所作の意味を生徒が理解できるように、教員が手本を示す場面では、途中で流れを止め、生徒自身が考える時間を設ける。

### 4. 実践の評価（成果と課題）

---

#### (1) 成果

- ・検定時は、繰り返し学習に取り組んだ成果を発揮し、多くの生徒が接客検定の流れを覚え、自分から行動することができた。
- ・「银杏祭」当日の朝、中学部重複学級のお店『おもてなし・わかば屋』での製品販売に向け、生徒全員が集合したところで、接客サービス検定の「認定証」が生徒一人一人に渡された。販売会では、「認定証」を首から下げて、自信をもって接客に取り組むことができた生徒が多かった。
- ・接客サービス検定の取組を通して、「ていねい」「おもてなし」などの気持ちについて生徒が考える機会となり、生徒それぞれが態度で表すように努める姿勢が見られた。「银杏祭」でのお客から「ありがとう」と返される経験を通して、自分の行動と「ていねい」などの気持ちをつなげ、理解を深めることができた。
- ・検定では自分でできる接客も、実際の接客では教員を介さなければ伝わらないことがあることを実感し、伝えることの難しさや大切さを考える場になった。

#### (2) 課題・展望

- ・本検定は校内検定であり、お客様役、検定員ともに本校の職員であることから、決まった流れで構成されている検定で使われる手話や指文字を理解することができるため、生徒がスムーズに検定を行うことができた。接客サービス検定の目的でもある「コミュニケーションのできる児童生徒を育てる」という視点から、生徒が今後、人を介することなく、社会生活の中で自ら相手とコミュニケーションをとることができるように、検定でもタブレットや文字カード等の視覚機器でのコミュニケーション手段の使用を、積極的に取り入れていく必要があると考える。
- ・校内検定の継続的な実施のために、接客検定の協力員の在籍の有無にかかわらず、検定の見極めができる（検定員）職員の育成や引継ぎができることが求められる。

# 接客サービス検定～初級編～を活用した

## 教育課程と授業の工夫

【学校名：千葉県立市川特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
～取組のポイント～

これまでの高等部「職業」の授業において、「挨拶」「言葉遣い」「身だしなみ」「マナー」等について触れてきていたところであるが、それぞれの内容の充実を図るため、教育課程及び教科の年間計画を見直し、接客サービス検定に向けた学習として置き換えた。（カリキュラムマネジメント）

また、主体的に取り組むことができるよう、生徒の実態に応じた教材や教具を工夫した。

\*\*\*\*\*

### 1. 実践の概要

#### (1) 対象生徒

高等部1年生（27名）

#### (2) 教科・領域

・教科「職業」の授業（週1回の授業）

#### (3) 目標

- ①実践的な学習を通して、職業生活や家庭生活に必要な力を身につける。
- ②接客に必要な力（身だしなみ、挨拶、言葉遣い等）を身につける。
- ③検定に向けた学習を通して、人と関わることの喜びや感謝の気持ちを学ぶ。

#### (4) 学習計画 ※学年実態別の3グループ編成にて展開

	テーマ（主な学習内容）
第1回	検定に向けて①（全体のガイダンス）
第2回	検定に向けて②（身だしなみ、言葉遣い、接客マナー）
第3回	検定に向けて③（製品・金銭の受け渡し）
第4回	検定に向けて④（反復練習）
第5回	接客サービス検定（事前の確認及び本番）

### 2. 実践の内容

- ・検定実施学年の職員を対象に事前研修を実施。評価基準や指導上の留意点について共通理解を図った。
- ・学習計画に沿って授業展開。ガイダンスでは検定動画の視聴やポイント解説。その後は、その日の重点項目を確認しながら検定の流れに沿った実践練習を繰り返した。本番当日は適度な緊張感をもちながら臨んでいた。



練習の様子

### 3. 工夫点

- ・授業展開は実態別の3グループに編成して行うようにした。
  - Aグループ（一般就労系）
  - Bグループ（福祉就労系）
  - Cグループ（生活介護系）

【主体的な姿を引き出す工夫】

- ・生徒の理解しやすい言葉でルビを入れた評価表を作成。自分で評価内容を確認しながら取り組めるようにした。(Aグループ、Bグループ) ※写真①
- ・発語が難しい生徒には、自ら「いらっしゃいませ」や「ありがとうございました」などの言葉を伝えられるよう、VOCAを使用するようにした。(Cグループ) ※写真②

【対話的な姿を引き出す工夫】

- ・検定の練習では、生徒同士で評価をするようにし、他者評価をもらいながら、自己理解につなげていくようにした。(Aグループ)
- ・接客の言葉とタイミングが分かるよう、場面に応じたカードを支援者が提示するようにした。(Cグループ) ※写真③

【深い学びを引き出す工夫】

- ・検定実施日を作業学習の販売会前に設定し、検定に向けた学習や検定での結果を踏まえて、販売会で成果を発揮できるようにした。(全グループ)

接客サービス検定 評価表

自分の名前： \_\_\_\_\_ チェックした人の名前： \_\_\_\_\_

		Oをつける
1.	髪の手や顔は整っていましたか？	○
2.	お客様が来たときに、体や目を倒していましたか？	○
3.	「いらっしゃいませ」と言ったり、おじぎをしっていましたか？	○
4.	製品を両手で受け取っていましたか？	○
5.	金額を正しく話していましたか？	○
6.	レジ係に両手で製品をお渡していましたか？	○
7.	お客様に両手で製品をお渡していましたか？	○
8.	「ありがとうございました」と言ったり、おじぎをしっていましたか？	○
9.	フラフラしないでお店にいらることができましたか？	○
10.	製品にさわらないことができましたか？	○
		計

写真①



写真②



写真③

4. 実践の評価 (成果と課題)

(1) 成果

- ・「接客サービス検定」という分かりやすい目標があることで、身につけたい力が整理された授業を組み立てることができた。
- ・障害程度が重度の生徒においても、補助具等を工夫することで、検定に参加できる姿が見られた。
- ・検定証を身につけることで、自信をもって意欲的に販売会へ参加する姿が見られた。「接客サービス検定」からのよい繋がりを感じられた。

(2) 課題・展望

- ・小学部、中学部での段階に応じた実施についての検討。
- ・高等部での上級編の導入。



販売会の様子

# 「つくし祭週間」での製品販売に向けた 中学部・高等部作業学習における取組

【学校名：千葉県立つくし特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
～取組のポイント～

本校の学校祭である「つくし祭週間」での製品販売活動に向け、中学部、高等部の作業学習で接客サービスマニュアルに沿った接客練習を取り入れ、来場者を迎える準備活動の充実を図った。よりよい販売活動を行うことで達成感の醸成につなげた。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

---

### (1) 対象生徒

中学部生徒、高等部生徒

### (2) 教科・領域

- ・各教科等を合わせた指導  
作業学習（つくし祭単元）

### (3) 目標

- ①販売活動を通じて来場者の応対や金銭の扱いなど、日頃の学習成果を発揮する場とする。
- ②作業製品の販売を行うことで製品が売れることで働くことなどの喜びを味わう。
- ③販売活動を経験し、製品作りや働く意欲を高める。

### (4) 学習計画

令和3年9月3日～令和3年9月30日

## 2. 実践の内容

---

### (1) 取組までの経緯

本校では昨年度より、高等部各作業班に「接客サービス検定マニュアル」を配付し、マニュアルを参考にしながら接客練習を始めた。今年度は、中学部各作業班へ接客マニュアルを配付し、「つくし祭週間」での製品販売に向けて、事前学習で活用することになった。



### (2) 取組の内容

中学部の生徒は接客の経験も浅い。接客サービス検定マニュアルでは接客における一連の流れが示されている。つくし祭当日は、生徒のできることを活かした役割分担で販売活動に取り組む。そのため、一人で接客の流れを全て身につけるのではなく、販売活動に必要なエッセンスを抽出した接客準備活動を行った。

高等部では、販売会を複数回経験している生徒もあり、接客サービスマニュアルを参考にし、よりよい接客を目指し、一つ一つの動作を確認しながら接客準備活動を行った。



## 3. 工夫点

---

- ・中学部では、接客準備活動でのポイントを、①挨拶、②製品の受け渡し、③代金の受け渡しに限定して事前学習に取り組むことで、焦点化を図った。
- ・教員が共に活動することで、生徒にとって分かりやすいロールモデルの提示をした。

- ・高等部では、接客の事前学習時に接客サービスマニュアルを手元に置き取り組むことで生徒がその場で動きの確認や振り返りをしやすくした。

#### 4. 実践の評価（成果と課題）

##### （1）成果

つくし祭は、コロナ対策により時間を区切った学年単位での販売活動となった。来場者も販売活動を行う学年の保護者に限定をした開催となった。

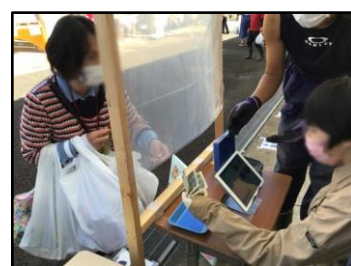
中学部では、次々と製品を手にするお客様を目の当たりにして、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」と元気よく挨拶をする姿が見られた。練習で取り組んできた製品の受け渡しやお金のやりとりでは、来場者を前に緊張した面持ちであったが、背筋を伸ばし、両手で丁寧に製品を受け渡す姿が見られた。短い時間の販売活動だったが自分たちの製品を手にした来場者とのやりとりを実際に体験できた貴重な三日間となった。

高等部では、接客サービスマニュアルに沿った販売活動練習を行った。生徒とマニュアルを読み合わせ、改めて挨拶や製品の受け渡しを確認し、より自身の学びを深めていった。また、コロナ禍で来場者も限られ、感染対策で大声が出せない状況の中「どのようにしたら来場者に喜んでもらえるか」、実行委員を中心に考えた。

「一方通行の通路にウェルカムボードを設置する」「作業班の紹介動画を作成する」「大きな看板を作成する」など、作業班ごとに工夫を凝らした。来場者への対応は、生徒同士で「こうだよ」など声をかけ合う姿も見られた。販売活動の経験を重ねてきている3年生は、基本的な接客対応だけでなく、つくし祭のために開発した新製品の説明やPRにも主体的に取り組むことができた。手応えを感じた生徒達は、次の「つくしマーケット」と「冬の販売会」に気持ちを向けていた。

##### （2）課題・展望

本校には、日々接客を伴う喫茶サービス等の作業班がないため、現在は検定合格に向けて取り組むのではなく、販売会等の場面を想定し、よりよい接客を目指すために接客マニュアルの活用を進めている。そのため、内容の提示方法や、生徒の様子に合わせた目標設定や評価の工夫が求められる。担当する教員により挨拶の仕方や、接客用語の使い方などが異なることもあった。マニュアルの活用を通して、教員間の共通理解を深めるとともに、教材の工夫と共有など環境整備も進めていくことができる。また、清掃やパソコン検定と同様に、接客サービス検定に向けての取り組みも進めていくことで、つくし特別支援学校の「おもてなし」を形作っていくきっかけとなることを期待できる。



# 接客を通してコミュニケーション力の育成と、 販売活動に生かすことを目指した取組

【学校名：千葉県立大網白里特別支援学校】

\*\*\*\*\*  
～取組のポイント～

高等部普通科における接客サービス検定は「お店の人になってみよう」という親しみやすい題材設定をすることで、検定に向けて意欲的に取り組めるようにする。高等部普通科職業コースは、日頃の販売活動の基本的な力として、初級編の6級取得を目標にして取り組む。普通科、職業コースともに、接客サービスの学習を通して、生活自立、職業自立に必要なコミュニケーション力や、人と関わることの喜びや感謝する気持ちの育成につなげていく。

\*\*\*\*\*

## 1. 実践の概要

### (1) 対象生徒

高等部普通科1学年 高等部普通科職業コース（昨年度初級未受検の生徒）

### (2) 教科・領域

- ・高等部普通科：職業
- ・高等部普通科職業コース：コース実習

### (3) 目標

[高等部普通科]

- ①接客サービス検定初級編の流れを覚えることができる。
- ②生徒に応じた方法で、お客様役に対応することができる。

[職業コース]

- ①接客サービス検定初級編の6級を取得することができる。

### (4) 学習計画

[高等部普通科] 題材名「お店の人になってみよう」

1	導入（学年）	・初級編についての説明、DVD視聴など
2	練習①	・各学級の取組（個々の目標の確認）
3	練習②	・各学級の取組
4	模擬検定	・検定の流れの確認
5	検定当日 7月16日	

[職業コース] 題材名「接客の基本を身につけよう」

1	導入・練習	・初級編についての説明、DVD視聴など
2	練習・模擬検定	・ポイントの確認、検定の流れの確認
3	検定当日 4月30日、12月2日	

## 2. 実践の内容

---

### [普通科]

- ・取組の導入後は、各学級で「職業」の時間を使い練習を行った。また、必要に応じて「ホームルーム」も使い練習を行った。

### [職業コース]

- ・昨年度までに初級編を受検していなかった生徒を対象に、「コース実習」の時間に抽出して練習を行った。



## 3. 工夫点

---

### [普通科]

- ・練習の初めは、一連の流れを掲示し、流れを確認できるようにした。
- ・評価基準となるポイントは、練習の前に教員が手本を示したり、板書したりして、意識できるようにした。

### [職業コース]

- ・日頃の校内販売で行っている接客の基本として、6級取得を目標にすることで、適度な緊張感をもちながら、検定に臨めるようにした。



## 4. 実践の評価（成果と課題）

---

### (1) 成果

#### [普通科]

- ・初級編の流れを理解し、検定に臨むことができた。
- ・「お店の人」になりきる様子が見られ、個に応じた方法で、お客様を意識した接客をする姿が見られた。
- ・検定の取組によって、日常生活では「ありがとうございました」と自然に伝えられる場面が増えたり、敬語を意識して遣おうとしたりする様子が見られるようになった。

#### [職業コース]

- ・検定日は、「6級を取得したい」という適度な緊張感と、意欲が見られた。
- ・会話が苦手な生徒は、6級の取得で自信をもてた様子だった。校内販売活動では以前よりもはっきりした声で「ありがとうございました」と感謝を伝えることができるようになった。
- ・校内販売活動は、接客サービス検定の方法を生かして、「接客係」「会計・レジ袋係」と役割を決めて行うようにした。役割が明確になったことで、お客様へスムーズな接客、対応ができるようになった。

### (2) 課題・展望

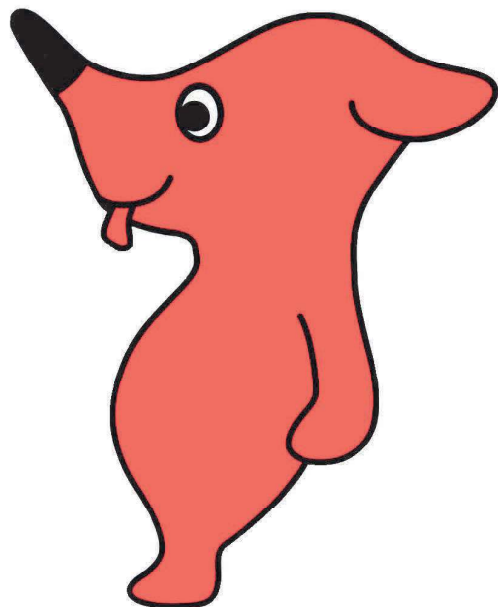
#### [普通科]

- ・6級取得者が、上級編に臨むにあたり、個に応じた目標の検討（5級から1級のどこを目指すか）と、学習内容や手だての工夫を図る。

#### [職業コース]

- ・上級編（試行）に取り組み、更に生徒の意欲の向上を図る。
- ・2級、1級の取得を目指した学習内容や手だての工夫を図り、日頃の販売活動に汎化できるようにする。

# 千葉県特別支援学校 清掃検定マニュアル 第2版



千葉県特別支援学校長会  
千葉県特別支援学校副校長・教頭会 編

## 目次

	ページ
● 『清掃検定マニュアル第2版』作成の基本的な考え方	2
1 清掃の進め方の原則	2
2 清掃資機材の特徴と主な用途	
タオル、バケツ、自在ぼうき、ちり取り、毛がき	3
スクイジー、プレーンモップ、ダストクロスモップ、モップ	4
3 清掃資機材の使い方	
(1) タオルの使い方	5
(2) 自在ぼうきの使い方	7
(3) スクイジーの使い方	9
4 校内清掃検定評価表	
(1) 机拭き校内検定評価表	11
(2) 自在ぼうき校内検定評価表	12
(3) スクイジー校内検定評価表	13
5 県清掃検定評価表(案)	14
6 【参考】平成25年度千葉県特別支援学校 県清掃検定課題	15
7 清掃作業する人のマナー	17
● 清掃を行う上で参考となる本	18

- 前回のマニュアル(平成25年3月末発行)と変えた点に下線を引きました。変更点は二重下線、追加点は一重下線です。
- 本書はあくまでも清掃の標準的な手順をまとめたものです。担当している幼児児童生徒の様子や清掃場所の状態に応じてご活用下さい。



## ●『清掃検定マニュアル第2版』作成の基本的な考え方

- 県内の幼児児童生徒が行える、基本的な清掃手順を載せる。  
(清掃の手順が書かれた教本を参考に共通部分を抽出して作成)
- 障害者技能競技大会、国家資格(ビルクリーニング技能士)の清掃手順に準じる。  
(それらの手順を精選し、規定されていない手順・注意点はできる限り加えない)
- 清掃手順を載せる基準は、合理的な作業であること。  
つまり、①作業が安全に行えて疲労が少ない。  
②立派な物(仕事)ができる。  
③より多くの作業ができる。
- 細かすぎる手順書は使いづらいと思われる。  
なぜなら、①清掃の方法はたくさんある(職場ごとに清掃の方法は異なる)。  
②正しい、ただ一通りの清掃方法は「ない」。  
(タオルの横絞り、自在ぼうきの逆手掃きをする清掃職は多数いる)  
③体の使い方・用具の動かし方を細かく規定すると、やり直す場面が増えて、幼児児童生徒の意欲が低下する。

★清掃の技能を身につける練習は、自動車教習所内の運転練習に似ています。  
技能習得の練習を繰り返すよりも、いろいろな場所を清掃することですがすがしさを  
味わい、清掃が好きな幼児児童生徒を増やしていきましょう。

## 1 清掃の進め方の原則

### (1) 上から下に向かって行う

- 上の階から下の階へと清掃を行えば、清掃済みの階を汚さず、資機材の運搬や移動も効率的。
- 階段や窓ガラスなど個別の清掃も同じ。

### (2) 奥から入口に向かって行う

- 作業済みの箇所を汚さないため。

### (3) 端から真ん中に向かって行う

- 端はほこりがたまりやすく、器具を操作しにくいので、先に行っておく。
- 先に行っておけば、やり残しがなく、作業の能率も上がる。

### (4) 狭い場所から広い場所に向かって行う

- 理由は(3)と同じ。  
(例：事務室で、机の下の狭いところのごみを、先に広い中央部に掃き出す。)

## 2 清掃資機材の特徴と主な用途

名称	特徴と主な用途	関連知識
<b>タオル</b> 	水拭き・から拭きなど清掃に欠かせない。八つ折りにして使うことが多い。タオルを使う利点は、①多くの面を使える②洗やすい③乾きやすい。汚れた面で拭くときれいな所まで汚してしまつため、折り返してきれいな面を使うようにする。トイレと洗面台など使用する部位により色分けする。	使用後は、よく洗い、広げて乾燥させる。乾いたら、一枚ずつたんで重ねて保管する。
<b>バケツ</b> 	タオルやモップをすすぐ時や、洗剤の希釈液を作る時などに使われ、その他用途が広い。容量は10～15リットルが一般的。	使用後は、よく洗い、水分を取り除いて保管する。
<b>自在ぼうき</b> 	4～5cmの長さの毛を植えたぼうきで、毛を植えた部分と柄との接合部が自由に動くようになっている。室内清掃で多用されている。屋外用には不向きで、屋内でも凹凸の多いところには不向きである。毛先幅30cmのものは主に階段用に、45cmのものはフロア用に使用されている。	綿ほこりなどがつきやすいので、毛がきでこまめに掃除することが必要。保管する場合は、つり下げておくと、毛先を上に向けておく。
<b>ちり取り</b> 	片手ちり取りは、ほうきで掃きながら片手でゴミを処理するのに便利である。三つ手ちり取りは、建物内外のちり取りとして広く利用されている。文化ちり取りは、室内用として使われるほか、ゴミがこぼれないので、拾い掃き用としても使われている。	使用後は、流水で洗い、水分を取り除いて保管する。
<b>毛がき</b> 	自在ぼうきなどの毛先からみついた綿ほこりや糸くずを取り除くのに使われる。毛がきの代用として、ワイヤーブラシや粗めのくしを用いる場合もある。	使用後は、ほこりなどを取り除き、つり下げるか、目につきやすい場所に保管する。

<p>スクイジー</p> 	<p>窓ガラスの清掃に使用する。ガラス面をタオルなどで適当にぬらし、水を一気に引く。ゴム幅が通常30～50cmまでの数種類があり、作業箇所に応じて使用されている。ゴム刃が劣化したら、ゴム刃だけ交換できる。</p>	<p>使用後は、流水で洗い、水を取り除き、ゴム刃を上にして保管する。</p>
<p>乾式モップ (プレーンモップ)</p> 	<p>乾いたモップで、床などのほこりを拭き取るのに用いる。楕円形の頭部が平らなのでプレーンモップと呼ばれ、体育館などの広い場所の除塵ができる。ぬれた床、湿っている床の清掃には適さない。</p>	<p>使用後は、ほこりを払い落とし保管する。汚れたら洗濯し、よく乾いた房糸に不乾性の鉱油を噴霧し、一晩置いてから使用する。</p>
<p>乾式モップ (ダストクロスモップ)</p> 	<p>不織布などを用いて、繊維間にほこりを付着させて除去する仕組みである。ぬれた床や砂などの多い床の清掃には適さない。最近は使い捨てでなく、コスト・ゴミ削減などから布製で洗って利用できるものもある。</p>	<p>ダストクロスについたほこりを、手でなでるように落としたり、掃除機で吸い取ったりして再利用する。ヘッドのスポンジ面を上にして保管する。</p>
<p>モップ</p> 	<p>床の拭き掃除や洗剤・ワックスの塗布に用いる。</p>	<p>使用後はよく洗い、つるすか、ラグを上にして乾燥させる。洗った後、糸が交差しないように手ぐしする。</p>

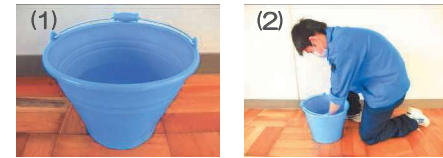
※県検定の資機材は、本書16ページをご覧ください。

### 3 清掃資機材の使い方

(1) タオルの使い方 使用資機材：タオル（雑巾）、バケツ、長机（学習机）、水

#### 1 準備

- (1)バケツに水を三分の1から半分ほど入れる→こぼしにくくする。
- (2)タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座る。長袖を着ていたら、袖をまくる。



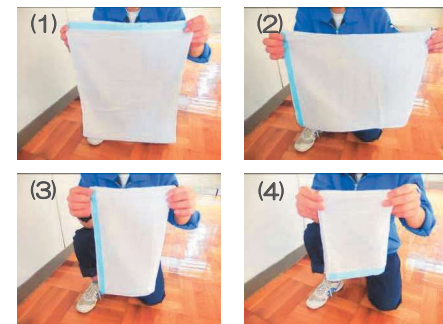
#### 2 絞る

- (1)タオルを水に浸す。タオルを水から上げ、二つ折りの位置を両手で持つ。
- (2)さらに二つ折りにする。
- (3)短い棒状にしたタオルを、両手のひらに乗せて下から握る（バットの握り方と同じ）。
- (4)両手で内側に絞り込む（バケツの中で絞ると、バケツのまわりをぬらさない）。絞ってもタオルから水がたれなくなるまで、固く絞る。
- (5)バケツの外に水滴をたらしないうよう、バケツの上で手についた水をタオルで拭く。



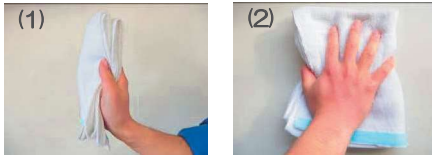
#### 3 たたむ（八つ折り）

- (1)タオルを広げ、両端を揃えて長い辺を折る（二つ折り）。
  - (2)長い辺の両端を両手で持つ。
  - (3)さらに長い辺を半分に折る（四つ折り）。
  - (4)さらに長い辺を半分に折る（八つ折り）。
- 〔わかりやすくするため、タオルの端を青く塗ってあります。〕



#### 4 持つ

- (1) 八つ折りにしたタオルの折り返しのない辺（バラバラの部分）を、親指と人差し指ではさむ→めくれることを防ぐ。
- (2) 親指と他の4本の指ではさんで持つ。

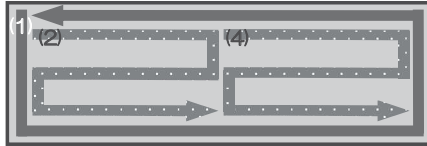


#### 5 拭く（長机を拭く） 左半分から始める場合の例（右半分から始めてもよい）

- (1) 机の左上隅からスタートし、机の周りを一周する。※
- (2) 一周した中の左半分を、奥から手前に向かって、3cm程度重なるよう、コの字型に拭く。
- (3) 作業途中でタオルの汚れを確認する。汚れていたら、その面が内側になるように折り返す。→汚れた面に手を当てると手が汚れ、新しい面も汚れる。
- (4) 中央に拭き残しがないよう、右半分も同じ手順で拭く。
- (5) 仕上がり点を検する。汚れが残っている箇所や拭き残しを拭く。

※拭き残しなく拭けることを評価する。  
長机を右半分から拭き始めたり、スタート位置が例と異なっていたり、周りを時計回りに拭いたりしてもよい。

#### ●長机の拭き方の一例



#### 6 洗う

- (1) タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座る。
- (2) バケツの中でタオルを広げ、汚れている所を両手でこすり合わせ、水がたれなくなるまで固く絞る。バケツの水が汚れたら、水を替える。



#### 7 片付け

- (1) バケツの周りにこぼれた水滴を拭き取る。
- (2) タオルをタオル掛けに干し、両端を揃えてひっぱって、しわを伸ばす。
- (3) バケツは洗って、水分を拭き取る。



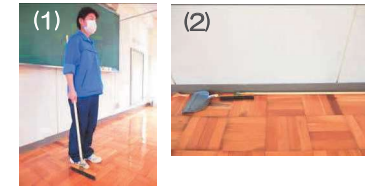
・タオルを使う利点：①多くの面を使える ②洗やすい ③乾きやすい

#### (2) 自在ぼうきの使い方

使用資機材：自在ぼうき、ちり取り、毛がき

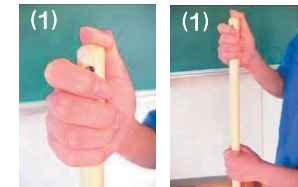
##### 1 準備

- (1) 運ぶとき→人や物に当たらないよう、柄をまっすぐに立てて身体に寄せて持つ。
- (2) 置くとき→ぼうき・ちり取り・毛がきを通行の妨げにならない場所に床に寝かせる。



##### 2 持つ

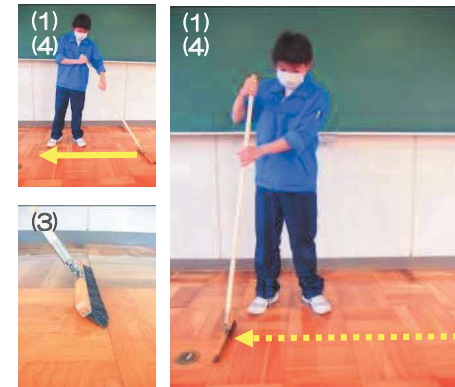
- (1) ぼうきの柄の先端に片手の親指をのせて握り、もう一方の手は柄の先端より30~40cmほど下を、親指が上になる向きで握る。
- (2) 両足は肩幅ぐらいに広げて、背筋を伸ばして立つ。



##### 3 掃く

【押さえ掃き】

- (1) 身体の前を横方向に動かし、前進しながら掃く。ゴミを取り残さないよう、前の掃き跡に少し重ねて掃いていく。
- (2) とくとき毛先を床に軽くたたいて、毛先についたゴミやほこりを落とす。
- (3) ほこりを舞い上げないように、ぼうきの毛先を床から離さず、軽く押さえるように掃く（押さえ掃き）。
- (4) 一回の掃き幅はおおよそ120~150cm（柄を握っている下の手を伸ばしたところから掃き始め、両足の前を過ぎたところで掃き終える）。
- (5) ぼうきを壁や机にぶつれたり、毛先を床に強く押しついたりしない。



##### 4 ゴミを取る

- (1) 掃き寄せたゴミは適宜一カ所に集めて、ちり取りで取る。
- (2) ぼうきの柄の下の方を親指が下になる向きで握る。

- (3) ほうきの毛先幅の半分程度をちり取りの中に入れるようにして掃き込む。
- (4) ゴミを取り残さないよう、ちり取りを2～3回後ろにずらしながら取る。



## 5 廊下を掃く

- (1) 出入口の右側から掃き始め、壁際のゴミを中央に寄せる。
- (2) 壁際の掃き方：ほうきを幅木に当てないよう、ほうきの頭部を幅木に対して斜めにして幅木に沿って掃き、次に身体の前を横方向に掃く（L字型に掃く）。
- (3) 区画の端まで進んだら、身体を90度回転させて次の列の足場を掃く。その後、進む方向に身体を90度回転させ、前進して掃く。
- (4) 中央に集めたゴミを出入口に向けて掃きちり取りで取る。
- (5) 掃き終えた区画を点検する。掃き残しがあれば掃き取る。
- (6) 作業後、毛先のゴミやほこりを毛がきで取る。

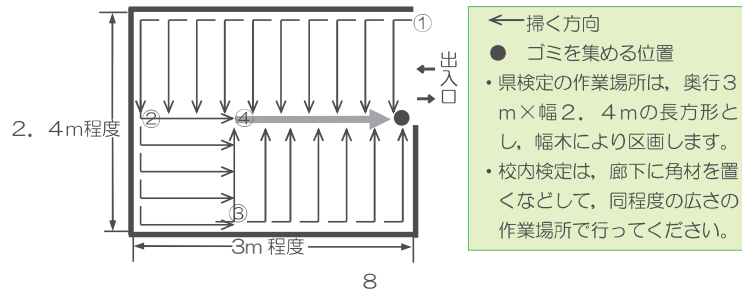


## 6 保管

- (1) 自在ほうきを保管する際、つるすか、毛先を上にして立てるようにする。毛先を下にして立てかけると、毛先に変なくせがつく。



### ● 廊下の掃き方の一例



## (3) スクイジーの使い方 使用資機材：スクイジー、タオル2枚、バケツ、水

### 1 準備

P.5 『タオルの使い方』1～3参照

- (1) スクイジーはゴム刃を上にして置く。→刃を傷めないよう
- (2) バケツに水を3分の1から半分ほど入れる。
- (3) タオル1枚を水にぬらし、ゆるめに絞る。
- (4) 絞ったタオルを八つ折りにする。

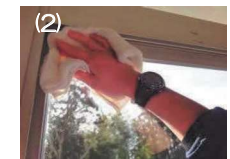
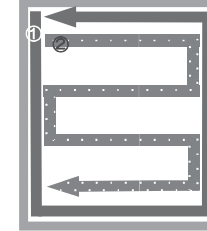


### 2 ガラス面を拭く

P.6 『タオルの使い方』4～5参照

- (1) タオルの折り目のない辺を、親指と人差し指ではさんで持つ。
- (2) ガラスの枠側を1周拭く（四隅は指先を使い込む）。中央部をむらのないようにコの字型に拭く。作業途中でタオルの汚れを確認する。汚れていたら、その面が内側になるように折り返し、新しい面を出す。

#### ●ガラス面の拭き方



※拭き残しなく拭ければ、拭き始めが左図と異なっても、周りを時計回りに拭いてもよい。

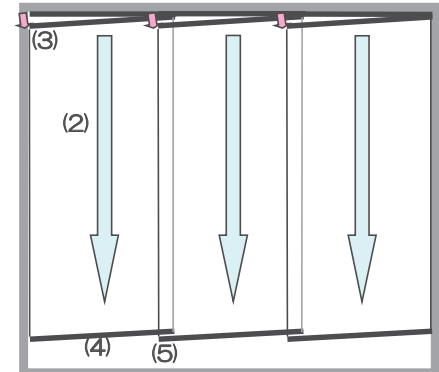
### 3 スクイジーを使う

【縦引き作業】

- (1) 絞ったタオルを一方の手に、スクイジーを他方の手に持つ。
- (2) 上部から下部へスクイジーを縦に引き下ろす。（左右どちらから引いてもよい）
- (3) 作業の終わった側のゴム刃を3cm程度下に傾け先行させ、汚水を広げないように引く。
- (4) 下枠までスクイジーを引き下ろさず、10～20cm程度余らせて止める。
- (5) 引き残しがないように、前の引き跡に5cm程度重なるように引く。



#### ●ガラス面の左側からスクイジーを引き始めた図



(6) スクイジーを引くとき、ゴム刃の角度を一定に保ち、軽く押しつけるようにして一気に引く。ゴム刃の角度を変えないため、膝を曲げて身体全体で引き下ろす。



(7) スクイジーを引くたび、ゴム刃をタオルで拭く→汚水をガラスにつけないため。

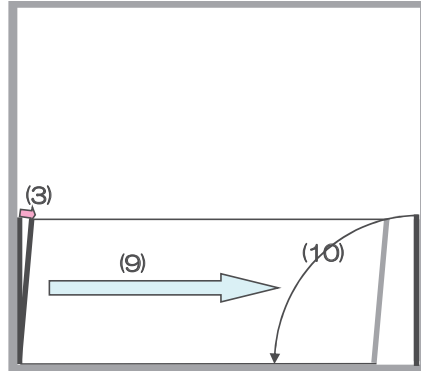
(8) (2)～(7)の作業を全面にわたって繰り返す。

(9) ガラス面の下の部分を、縦枠まで10cm程度残したところまで、水分を落とさないようタオルを真下にあてながら、スクイジーを横に引く。

(10) コーナーは、タオルを真下にあてながら、スクイジーを扇形に引き下ろして仕上げる。力を入れすぎると、水切り操作がしにくい。

(11) タオルの汚れた面が内側になるように折り返して新しい面を出し、バケツの縁にかける。

●ガラス面下部のスクイジーの引き方



#### 4 から拭き・点検・補修

(1) 乾いたタオルでガラス面の縁をから拭きする。タオルを指先にあてがい、四隅は奥まで拭く。



(2) ガラス面を斜めなどから見て、仕上がりを点検する。

(3) 補修の必要がある箇所を乾いたタオルで拭き直す。

#### 5 片付け・手入れ

(1) バケツ周りや床がぬれていたら、ぬれタオルで拭く。

(2) スクイジーはゴム部分を水洗いして乾いたタオルで拭き、ゴム刃を上にして保管する。

## 4 校内清掃検定評価表

### (1) 机拭き校内検定評価表

・使用資機材 1～5級 タオル、バケツ、長机(180cm×60cm程度)、水  
6～10級 雑巾、バケツ、学習机、水

作業順序	1～5級	評価	6～10級	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>バケツに水を3分の1から半分ほど入れたか。</li> <li>タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座ったか。</li> <li>長袖を着ていたら、袖をまくったか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>バケツに水を入れ、こぼさず運んだか。</li> </ul>	
絞る	<ul style="list-style-type: none"> <li>水に浸したタオルを縦に四つに折り、バットの握り方で、絞ってもタオルから水がたれなくなるまで固く絞ったか。</li> <li>バケツの外に水滴をたらさないよう、バケツの上で手についた水をタオルで拭いたか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>水がたれない程度に絞ったか。</li> </ul>	
たたむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>タオルを八つ折りにしたか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>雑巾を二つ折りして、広げて持ったか。</li> </ul>	
持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>八つ折りしたタオルの折り目のない辺を親指と人差し指ではさみ、タオルを親指と他の4本の指ではさんで持ったか。</li> </ul>			
拭く	<ul style="list-style-type: none"> <li>長机を拭く【例】左半分から始める場合</li> <li>机の左上隅からスタートし、机の周りを一周したか。※(本ページの下部参照)</li> <li>一周した中の左半分を奥から手前に向かって、3cm程度重なるよう、コの字型に拭いたか。</li> <li>タオルの汚れた面を内側に折り返したか。</li> <li>中央に拭き残しがないよう、右半分も同じ手順で拭いたか。</li> <li>仕上がり了点検し、汚れが残っている箇所や拭き残しを拭いたか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習机を拭き残しなく拭いたか。</li> </ul>	
洗う	<ul style="list-style-type: none"> <li>タオルを持ち、バケツの前に片膝を立てて座ったか。</li> <li>バケツの中でタオルを広げ、汚れている所を両手でこすり合わせ、水がたれなくなるまで固く絞ったか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>両手でこすり合わせて洗い、しわを伸ばして干したか。</li> </ul>	
片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>バケツの周りにこぼれた水滴を拭き取ったか。</li> <li>タオルをタオル掛けに干し、両端を揃えてひっぱって、しわを伸ばしたか。</li> </ul>			

●評価基準…評価欄についてOの数で級を決める。

1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
10個	9個	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個

※拭き残しなく拭いたことを評価する。(長机を右半分から拭き始めたり、スタート位置が例と異なっていたり、周りを時計回りに拭いたりしてもよい。本書6ページ参照。)

(2) 自在ぼうき校内検定評価表 使用資機材：自在ぼうき、ちり取り、毛がき

作業順序	1～5級	評価	6～10級	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほうきの柄を立て<u>身体に寄せて持ち運んだか。</u></li> <li>• ほうき・ちり取り・毛がきを通行の妨げにならない場所に、<u>床に寝かせて置いたか。</u></li> </ul>		ほうきを <u>身体に寄せて運んだか。</u>	
持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほうきの柄の先端に片手の親指をのせて握り、もう一方の手は柄の先端より30～40cmほど下を、<u>親指が上になる向きで握ったか。</u></li> <li>• 両足は肩幅ぐらいに広げて、<u>背筋を伸ばして立ったか。</u></li> </ul>		<u>背筋を伸ばしてほうきを持ったか。</u>	
掃く	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほうきは身体の前を横方向に動かし、<u>前進しながら、前の掃き跡に少し重ねて掃いたか。</u></li> <li>• <u>ときどき毛先を床に軽くたたいて、ゴミやほこりを落としか。</u></li> </ul>		ほうきの毛先を床から離さず、軽く押さえるように掃いたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほうきの毛先を床から離さず、<u>軽く押さえるように掃いたか。</u></li> <li>• 一回の掃き幅はおよそ120～150cmか。 (柄を握っている下の手を伸ばしたところから掃き始め、<u>両足の前を過ぎたところで掃き終えたか。</u>)</li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほうきを壁や机にぶつけたり、毛先を床に強く押しつけたりしていないか。</li> </ul>			
廊下を掃く	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 8ページの図のように順番に掃いたか。(出入口の右側から掃き始め、壁際のゴミを中央に寄せる。<u>壁際の掃き方：ほうきを幅木に当てないよう、ほうきの頭部を幅木に対して斜めにして幅木に沿って掃き、次に身体の前を横方向に掃く。区画の端まで進んだら、身体を90度回転させて次の列の足場を掃く。その後、進む方向に身体を90度回転させ、前進して掃く。</u>)</li> <li>• 中央に集めたゴミを出入口に向けて掃き、ちり取りで取ったか。(ほうきの柄の下の方を親指が下になる向きで握り、ほうきの毛先幅の半分程度をちり取りの中に入れて掃き込む。ゴミを取り残さないよう、ちり取りを2～3回後ろにずらしながら取る。)</li> </ul>		端から順番に掃いたか。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>掃き終えた区画を点検したか。掃き残しがあれば、掃き取ったか。</u></li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 作業後、毛先のゴミなどを毛がきで取ったか。</li> </ul>			

●評価基準…評価欄について○の数で級を決める。

1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
10個	9個	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個

※校内検定は、本書15～16ページを参考に、各校の状況に合わせて形で行って下さい。

(3) スクイジー校内検定評価表 使用資機材：スクイジー、タオル2枚、バケツ、水

作業順序	1～5級	評価	6～10級	評価
準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>スクイジーはゴム刃を上にして置いたか。</u></li> <li>• バケツに水を3分の1から半分ほど入れ、<u>タオル1枚をゆるめに絞ったか。</u></li> <li>• <u>絞ったタオルを八つ折りにしたか。</u></li> </ul>		タオル1枚をゆるめに絞り、 <u>八つ折りしたか。</u>	
ガラス面を拭く	<ul style="list-style-type: none"> <li>• タオルの折り目のない辺を、親指と人差し指ではさんで持ったか。</li> <li>• ガラスの枠側を1周拭いたか(四隅は指先を使い押し込む)。中央部をむらのないようにコの字型に拭いたか。タオルの汚れた面を内側になるように折り返し、新しい面を出したか。</li> </ul>			ぬれたタオルでガラス全面を拭いたか。
スクイジーを使う	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 絞ったタオルとスクイジーを持ち、上から下へスクイジーを縦に引き下ろし、<u>下枠までスクイジーを引き下ろさず、10～20cm程度余らせて止めたか(左右どちらから引いてもよい)。</u></li> <li>• <u>作業の終わった側のゴム刃を3cm程度下に傾け先行させたか。</u></li> <li>• <u>前の引き跡に5cm程重なるように引いたか。</u></li> </ul>			スクイジーでガラス全面を引いたか(ガラス面に水滴が残っていてよい)。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>スクイジーを引くとき、ゴム刃の角度を一定に保って一気に引いたか。膝を曲げて身体全体で引き下ろしたか。</u></li> </ul>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スクイジーを引くたびゴム刃をタオルで拭いたか。上記の作業を全面にわたり繰り返したか。</li> <li>• ガラス面の下の部分を、<u>縦枠まで10cm程度残したところまで、水分を落とさないようタオルを真下にあてながら、スクイジーを横に引いたか。コーナーは、タオルを真下にあてながら、スクイジーを扇形に引き下ろして仕上げたか。タオルの汚れた面が内側になるように折り返し新しい面を出し、バケツの縁にかけたか。</u></li> </ul>			
から拭き点検補修	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乾いたタオルでガラスの縁をから拭きしたか。(タオルを指先にあてがい四隅は奥まで拭く)</li> <li>• <u>ガラス面を斜めなどから見て、仕上がりを点検したか。補修の必要がある箇所を乾いたタオルで拭き直したか。</u></li> </ul>			ガラス面に残った水滴を拭いたか(仕上がりは問わず)
片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>バケツの周りや床がぬれていたら、ぬれたタオルで拭いたか。</u></li> </ul>			<u>ぬれた床をぬれたタオルで拭いたか</u>

●評価基準…評価欄について○の数で級を決める。

1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	9級	10級
10個	9個	8個	7個	6個	5個	4個	3個	2個	1個

## 5 県清掃検定評価表（案） （障害者技能競技大会に準じています）

作業順序	作業方法	評価
資機材の準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に必要な資機材はすでに会場に準備されている。 <u>（資機材および数量は別紙資機材一覧表を参照のこと）</u></li> <li>資機材の点検終了後、係員の指示に従い、<u>所定の位置に立つ。</u></li> </ul>	
検定開始の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>審査員の始めの合図で、挨拶を行って、検定を開始する。</li> <li>開始の挨拶→「<u>（学校名）の（氏名）です。始めます。</u>」などと言う。</li> </ul>	
作業準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定で使う資機材を、保管場所から作業場所の近くへ移動する。</li> </ul>	
入室の挨拶※	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業場所出入口にて作業場所に向かって入室の挨拶を行う。</li> <li>入室の挨拶→「<u>失礼します</u>」などと言い、一礼して作業場所に入る。</li> </ul>	
清掃を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>本マニュアルに準じて作業を行う。 <small>（平成25年度の県検定課題は15～16ページ参照）</small></li> </ul>	
点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>指差しや目視などで、資機材の忘れ、ゴミの取り残しなどの点検を行う。<u>点検の際に声を出さないこと。</u></li> </ul>	
退室の挨拶※	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業場所出入口にて、作業場所に向かって退室の挨拶を行う。</li> <li>退室の挨拶→「<u>失礼しました</u>」などと言い、一礼して作業場所から離れる。</li> </ul>	
資機材の片付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用した資機材を保管場所に戻す。</li> </ul>	
終了の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>所定の位置に立ち、終了挨拶を行う。</li> <li>終了の挨拶→「<u>終わりました</u>」「<u>終了しました</u>」などの意思表示を行う。</li> </ul>	

※窓清掃は、「入室の挨拶」「退室の挨拶」は行わない。

### （1）各賞の評価基準

- 金賞：清掃開始前、清掃、清掃終了後の全手順で、すべてが○の評価。
- 銀賞：清掃開始前、清掃、清掃終了後の全手順で、○が90%以上の評価。
- 銅賞：清掃開始前、清掃、清掃終了後の全手順で、○が90%未満の評価。

（2）審査員は受検者の様子を評価し、支援は行わずに見守る。

（3）引率者も支援は行わない。（支援した場合、受検者が失格となることもある。）

（4）挨拶・自己紹介等では、受検者の様子に応じ、手話・身振りやサイン、カードを提示するといった、代替・補助コミュニケーション手段を使用しても可とする。

★今後この評価表に「作業のスムーズさ」などの項目を加える場合があります。

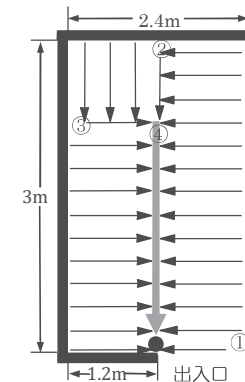
## 6 【参考】平成25年度千葉県特別支援学校 県清掃検定課題

### ◎一般的な注意事項

- 2種目とも制限時間10分とします。検定を開始して残り時間1分になったとき、「残り1分です。」と受検者に伝えます。
- 使用する資機材は、支給されたもの以外は使用できません。（ただし、検定申込時に申込用紙に記載し、主催者の許可を得た場合を除く。）
- 検定開始の指示は審査員が行います。
- 県検定では、あいさつ、報告、所要時間も審査の規準に加わります。詳細については、『千葉県特別支援学校 清掃検定マニュアル』旧版21ページをご覧ください。
- 作業服は、授業等で着ている作業に適した衣服で、ジャージも可です。
- 作業靴は、授業で履いている作業に適した上履きで、サンダルは不可です。
- 県検定の評価項目に入っていませんが、身だしなみを整えて参加してください。  
（洗濯してあるきれいな作業服を着る、長ズボンをはく、シャツの裾を出さない、靴ひもをしっかりと結ぶ、靴のかかとを踏まない、ひげや爪を伸ばさないなど）

### ◎種目1：床清掃

- 作業場所は、縦3m×横2.4mの長方形とし、幅木により区画します。ほうきを幅木に当てないように、十分に練習してください。【下図参照】
- 床材質は木質とします（体育館の床で行います）。
- 自在ほうきによる床面の掃き作業です。
- 床のゴミは「水で湿らせたおがくず」とし、10g程度をまいたものとします。
- 幅木の上には壁があるものとして作業を行ってください。
- 進行の都合上、県検定では窓の開け閉めは行わず、また作業場所に椅子や机などの備品を一切置きません。
- 県検定では、握った手の下の方から引いて掃く（逆手掃き）も可とします。

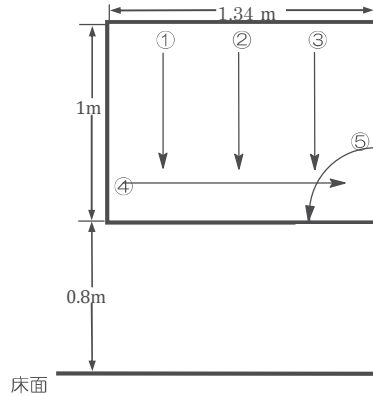


注：作業の進行①～④  
自在ほうきを掃く回数を表したものではありません。  
●…ごみを集める位置

マニュアル第2版では、壁際をし字型に掃くことを追加しました。  
本書8ページをご覧ください。

◎種目2：窓清掃

- 1 作業場所は、縦1m×横1.34mの長方形とします。また、床面からの高さは、一番低い辺で0.8m、一番高い辺で1.8mとします（高さ1.8mに手が届かない受検者は、11月25日までに清掃検定事務局に申し出てください）。【下図参照】
- 2 窓ガラスはフロート板ガラス（最も一般的な単層透明板ガラス）とします。
- 3 タオルとスクイジーによるガラス面の洗浄作業です。



注：スクイジーの作業手順  
①～⑤  
スクイジーを動かす回数を表したものではありません。

◎資機材一覧表

- 1 検定会場に準備されているもの

(1) 種目1：床清掃 ※各受検者が選んで使用します。

品名	寸法又は規格	数量	備考
自在ぼうき	毛先幅30cm	1本	共通消耗品
自在ぼうき	毛先幅45cm	1本	
ワンタッチモップ柄	ワンタッチアルミ伸縮柄	1本	
ワンタッチ自在ぼうきヘッド	毛先幅45cm	1個	
文化ちり取り		1個	
片手ちり取り		1個	共通消耗品
毛がき		1本	

(2) 種目2：窓清掃

品名	寸法又は規格	数量	備考
スクイジー	ゴム幅45cm	1本	
バケツ	10リットル, 寸胴型	1個	
タオル	無地, 白色	2枚	

- 2 受検者が持参するもの

品名	寸法又は規格	数量	備考
作業着(上・下)	授業等で着ているもの	1着	ジャージ可
作業靴	授業で履いている上履き	1足	サンダル不可

※平成26年度以降の課題は変更する場合があります。(スクイジーは、ゴム幅35cmも検定会場に準備し、各受検者が選んで使用できるようにする見込みです。)

7 清掃作業する人のマナー

自分もまわりの人も気持ちよく働くために

●清潔な身だしなみを心がけよう

- 髪を整え、ひげそり、歯磨き、洗顔をしましょう。
- シャツはズボンの中に入れてみましょう。
- 上着のファスナーは必要以上に開けません。
- 安全のため、靴のかかとを踏みません。
- 派手な靴下は履きません。
- 長い髪は後ろで束ね、さっぱりした髪型にしましょう。
- 爪を短くして、手を清潔にしておきましょう。
- 服は汚れたら洗濯し、いつも清潔なものを着ましょう。
- ハンカチをポケットに入れておきましょう。

●マナー

- 誰に対しても言葉遣いを丁寧にし、失礼のないようにしましょう。
- 挨拶・返事は、相手に聞こえるようはっきりと言いましょ。
- 自分勝手に作業を進めず、スタッフの指示に従いましょう。
- 困ったことや、わからないことはスタッフに聞きましょう。
- 清掃道具はいつも清潔にし、乱暴に扱いません。
- いつもニコニコして、楽しく働きましょう。



● 清掃を行う上で参考となる本を紹介します

『小学校清掃指導マニュアル』公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会 ※

『特別支援教育清掃マニュアル』公益社団法人 東京ビルメンテナンス協会 ※

『エル・チャレンジ清掃技能テキスト』大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合

『目で見るビルクリーニングの基礎』岸正

『新版 ビルクリーニング科実技テキスト』一般財団法人 建築物管理訓練センター

『基本ビルクリーニング教本』金山英二

『清掃のスペシャリストを目指して』一般社団法人 関西環境開発センター

※はホームページから無料でダウンロードできます。

千葉県特別支援学校  
清掃検定マニュアル第2版

編集 千葉県特別支援学校校長会  
千葉県特別支援学校副校長・教頭会  
発行日 平成26年3月31日

令和5年3月  
千葉県教育委員会  
千葉県特別支援学校キャリア教育推進協議会

